朝鮮人蔘の伝統を守る
蔘貴精
信州薬用人蔘生産者組合
お問合せは・TEL 0425(91)0187

うえだ
社団法人 上田高等学校同窓会関東支部会報
12月1日（水曜日）
1971
季刊
第6号
発行所
上田高等学校同窓会関東支部事務局
発行責任者　島田次郎
編集責任者　花岡巍
埼玉県川口市並木町2－11－6
矢島鉄工所内
電話　0482－53－2662（代表）
題字は稲垣征夫氏筆

上田健児の意気高し

新陣容成り又前進
＝第十回大会盛大に終る＝

関東支部大会も回を数えるに至り、今年で、十回目を迎えることになり記念すべき大会が七月九日開催されました。会場は例年のように、農林年金会館がとれず、本部よりも多数の来賓が見えられ盛大な開催となりました。

午後四時、会場のホールには未だ暑気がつかないうちに一番乗りは坂井副支部長、棚橋雄、棚沢広、綱内幸、の諸氏がいくも顔を見せロビーで楽しい談笑が始まって居ましたが四時三分頃から続々と同窓生が集い、早くも大会のムードとなりました。

名簿事が、受付・来賓・会場・等の部処に配属がすでに決っていましたので定刻と同時に小林会計幹事の指示のもとに会費徴集の受付事務が開始されました。

会場の方は今年から新しい試みとして織会場には会員以外を用意して座り、来賓の皆さん等の話はよく聞くようにとの配慮であったが、これはいつも宴会場の中で繰り広げられる様子に遠慮して、会場の雰囲気を味わって頂こうとの配慮であった。

会員諸氏の国の斉唱するのを聞きながら、よくここまでまとまって来たものだ、これからもっと発展して農林年金会館のホールがせまいくらいな教室ったら痛快はどんな大会を開催するだろう、と余計な思いがふっと頭をかすめた。

大会の閉会が告げられてもロビーや、会館玄関ではいくつものグループが出来、いつまでこうして立ち去ろうとせず、久し振りに会った同期生や、先輩、後輩との交換が続いていた。大会について感想を聞いてみた。

一年々々大になり、しかも若い諸君が積極的に参加している事は何よりもうれしい」（20期某氏）

「先輩があんなにハッスルするのをみてびっくりした。はじめて今年出て来たが、来年は同期の連中をさんとそそって来たい。ハイヤーのお客が来ていたとは……若いお客が来年はもっとふんで下さいよ」（38期　某君）

いつのまにか大ホールの明りが消えた。あの明るい様な雰囲気と、熱気は、広い東京のあちこちに移され、上田健児の奮声が夜の盛り場を狂わしたにちがいない。

島田支部長、矢島幹事長をはじめ大任を果された幹事諸氏の御努力に感謝する。

社団法人・上田高校同窓会
「関東支部」のあゆみ（5）
和合の精神こそ礎

本年七月九日に開催された関東支部の大会は、第十回目を迎えた記念すべき大会であった。

しかし、前第五号の会報にまで綴ってきた関東支部のあゆみも、ようやく第一回の支部大会が如何なる過程を経て開催されてきたかという記述と当時の断片的な想い出の記録の域を脱していない。だが私は、今日迄に執筆してきた本会が今後この大会が同窓のことをとして、これから益年開催されてゆくことであろうと思うが、本会発足の歴史は出来るだけ詳しく記録にとどめておきたい思う。否これは必ず綴り置くべきことであるはずだといえる。

それはさ、第一回の大会を開催するまでの計画やら打合せには、当時努力して下った諸幹事、特に先輩各位の御苦心があったのである。

昭和三十三年四月に開催された第一回大会が、今日の会報を出すまでに隔世となった本会のあゆみを、憶が想像したことであろうか。

思えば感も記憶深いものがある。

×××

昨年十月十八日上田高等学校創立七十周年記念事業の一つとして同窓会名簿の発行が決まり、本年二月より掛川源氏（38回卒）を中心に、小島弘子事務局長以下当時二名の女子職員による名簿作成委員会が結成され、鋭意推進して来た。第四回名簿発行以来十年の年月が流れており、小島女は五年前から丹念に資料を訂正し、その資料は集まる度に赤になり、昔の面影がなくなっていた。一年前から名簿及び関東支部

待望の名簿完成

を中心に、各種会合の通知の発信と名簿記入等を会員に御依頼をした事は、御協力下さった関係者各位及び掛川氏を中心に委員の皆様方の御努力の賜であり、深甚の敬意と感謝申し上げる次第である。

今月現在所・職業・電話等変更の確定まり、まさに不眠不休の活動を持続し、更に各期の幹事諸氏に期待する名簿について訂正を御願いし、又校内職員の皆様の御協力も仰ぎよう、下段広告欄を御参照の上御申込み下さる様御願いする。

……第一回の関東支部大会は三十五年に、丁度十四年間もの空白の年月があったために、本部の第一回、第二回と評述してある。次号からは第二回大会開催の前後から、そのあゆみを綴ってみたいと思う。（幹事長・矢島五郎記）

しかし昭和三十三年四月の第一回東京支部大会（当時の呼称）が開催されるまでの一度十年間にわたり、大会を開催されなかった、今年は同期の連中をさんとそそって来たい。ハイヤーのお客が来ていたとは……若いお客が来年はもっとふんで下さいよ」（38期　某君）

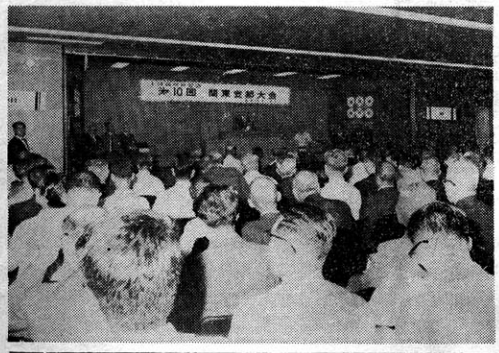
いつのまにか大ホールの明りが消えた。あの明るい様な雰囲気と、熱気は、広い東京のあちこちに移され、上田健児の奮声が夜の盛り場を狂わしたにちがいない。

島田支部長、矢島幹事長をはじめ大任を果された幹事諸氏の御努力に感謝する。

「先輩があんなにハッスルするのをみてびっくりした。はじめて今年出て来たが、来年は同期の連中をさんとそそって来たい。ハイヤーのお客が来ていたとは……若いお客が来年はもっとふんで下さいよ」（38期　某君）

いつのまにか大ホールの明りが消えた。あの明るい様な雰囲気と、熱気は、広い東京のあちこちに移され、上田健児の奮声が夜の盛り場を狂わしたにちがいない。

島田支部長、矢島幹事長をはじめ大任を果された幹事諸氏の御努力に感謝する。



同窓会名簿完成間近し

◎　昭和47年1月20日発行予定。
◎　限定出版につき、至急御申込下さい。
（1部送料共　2,000円）
◎送金は振替郵便か銀行口座を御利用下さい。

・振替口座の場合　口座番号　長野10378番　社団法人　上田高等学校同窓会
・銀行口座の場合　八十二銀行上田支店上田高等学校名簿部普通預金口座　27－816

上田市大手一丁目　社団法人　上田高等学校同窓会　電話上田02682－2－3146

中国を訪れて
―その印象―

衆議院議員（21期）松平忠久

昨年末衆参両院議員の有志が、自発的に組織した「日中国交回復促進議員連盟」の訪中団の一員として、私は九月中旬から十月初旬にかけて訪中した。

戦前に中国の大学に三年、外交官として七、八年在住し、戦後正式には三回目の訪中であったので、この間における中国側の変遷をまざまざと体験した。その印象を若干披露したいと思う。

今度北京で、中日友好協会会長代理の王国権さんから「どんな印象を得ましたか」と質問されたので、私は「第一に中国人―殊に若い人々の顔付きが変りましたネ」と答えた、元来中国人の顔付きは北方の人と南方の人とは概して違っていた。南方人は日本人に似ており目付きも鋭かったが、北方人にはぼうよう型の人が多かった。

これは北方の漢民族が蒙古族や満州族との雑婚から来た現象だと識者は説明した、所がだんだんぼうよう型が少くなり、機敏さと鋭さが顔に表れて来ているのである。この原因は社会主義を基調とする義務教育が毛沢東政府になってから普及したことと、文化革命の過程で毛沢東語録学習の徹底による思想工作が、青少年を中心として一層、普遍化したことによるのではないかと推測されるのである。人の顔も血縁の関係が一つの要素であろうが、教育や環境が人の顔を変える実例ではなかろうか。

もう一つ私が王国権さんに答えたのは、「民主集中制」が思ったよりうまく運営されているということだった。「民主集中制」とは学校・工場・人民公社・病院その他あらゆる機関において解放軍の代表、党の代表、労働者の代表の「三結合」を以って運営の責任をとらせている体制である。人民公社を見学したときもこの三結合の代表が主役となり、その中の党の代表が全般的のことを説明し、更に細部に亙っては労働者（すなわち農民）の代表が説明に当るという仕組であった。

中国側の説明によると、労働者の代表を加え積極的に発言させている仕組は、欧米のブルジュア・デモクラシーと違っている点であるとのことだった。この制度が大体地に着き、互に正論を闘はせ、落ちつく所に落ちつかせている模様であった。

しかし、精華大学を見学した時は、稍々、異様に感じた。ここでは教授の代表が加わっていたが、彼等はしょんぼりした姿で隅の方に腰かけ、発言も少ないのである。昔の制度だったら教授が運営を牛耳っていただろうに、彼等も学生その他造反派の吊し上げを受け、反省して昔の権限を返還し、新たに結合の代表として出席しているという姿だった。だが、彼等は学識をもっているのである。私が彼等に英語で話しかけると、彼等は滔々と学識のあるところを喋り、エリート意識が漸次表われ、しょんぼりした姿はなくなって、目も輝いてきたのである。私はこの姿を見て、上から押しつけられた大学の三結合は真の民主集中制ではないような疑問をもつに至りむつかしい面も残っているように感じた。

これと同じようなことを聞いた。一九六五年頃のことで、当時北京大学の学生を半年位地方に送り、労働に就かせる方針をとったが、人民公社に派遣された北京大学の学生六名は、労働者と融合しようと努めたが、農民がこれに応ぜず、「お前達はエリートじゃあないか、学校を卒業すれば出世コースを進むんだろう」などと冷やかし、遂に融和出来なかったという話をきいた。

現在は学生を地方に派遣し、実務に就かせる制度はなくなっていた。もう一つ、変った特徴的なものは大学の入学制度であった。文革後各大学は入学試験を行わないことになった。また、大学学習を改め、優秀なものを実務教育することに定められた。

大学の採用学生は教育部（文部省）と大学当局が決定し各省に割り当て、各省は、下部の工場や、人民公社等に再割り当し、推薦させるのである。推薦される資格は中学校を卒業して現場の仕事に二年以上従事していたもので、労働者の推薦によって決まるのである。従って入学試験はなく、学費、生活費は政府持ちである。

五年以上現場の仕事に従事していたものに対しては、この外現給与が支給される仕組である。卒業後はもとの職場に復帰するのが原則であるが、例外的には政府によって勤務替えさせられることもある。現行の教育は実務に役立つものを中心としているが、このような制度は硬直化の恐れがあり、エリート階級、官僚制度の新な擡頭を促すことになりゃしないかと若干の疑問を生じた所である。

この外、農業や工業の面について報告したいのであるが紙数に限りがあるので、結論めいたものを述べたい。

第一に中国の外交が二年程前から極めて開放的積極的になったことである。これは文革がまあまあ成功裡に収束されたことと、中ソ関係が、相変らずよくないためであろう。中ソ間の紛争は国家間の争であり、イデオロギーの相違ではない。従って長期に亘って不仲が続くであろうと見られる。

昨年欧州を廻ったときに日本の在外公館のものにきいてみると中国の外交官は非常に積極的、開放的になったと、異口同音に話していた。中国政府の政策がそのように変ったのである。これはよい傾向である。中国を孤立させることは世界にとって不利である。

第二は現在の体制が、長期間に亘って続くだろうということである。毛沢東なき後は、集団体制をとるであろうが、毛思想がその指導原理となり、タガとなるであろう。従って、反革命のようなものはないが、国民の物質的生活が向上されるにつれて、漸次自由を欲する傾向が表われ、東欧ではあるが、ソ連東欧式の方向に似てくるのではなかろうか。

母校の思い出
陽炎（かげろう）会・「おはよう」のこと

（32期）山極真平

上中三十二回卒というと、名簿の上でも、後の方が大分厚くなって、よくも年だけはとったものだと思います。

然し上中時代の思い出は、未だに鮮烈であります。

五年間ごやっかいになった上に母校の教師として、十三年に亘って後輩と共に真田の門をくぐることの出来た光栄を身にしみております。

昔弓道場のあった、今の体育館のあたりの一教室を巣にして、デッサンにうち込んだものでした。

昭和六、七年頃でしたか、そのグループは、所謂同好会で「陽炎会」と名付けました。

先生は、今は亡き、画壇の重鎮萩原先生でした。この頃は、上中名物の柔道は、勿論のこと剣道も盛んで、私共一年先輩、現小山市長さん方の時代で有り、伊藤、後藤、玉井、篠田などという方々が剣士として活躍され橿原神宮だったか全国大会にも出場され、校名をとどろかせた事も、記憶しています。こんな勇ましい時代に、画架を前に、木炭を動かしているひっそりとしたものには余り人気がなく所謂自前で細々続ける活動でした。若くしてこの世を去った二人大田甫君、納屋藤十君、又現在高校長として頑張っている坂本勝三君などが、仲間の中心としてあげられます。

太田君などは、夏休に上京して川端画子の塾で、講習まで受けたものです。

坂本君は、現在でも写真機の代りにスケッチブックを校長カバンの中にしのばせて出張先などの、ひまびまを絵に生かしている様子です。

萩原先生は、たしかにモルモットという渾名で親しまれておられました。温容の中に眼を細くして笑みをたたえ、言葉少なに指導されました。

描く力は上中時代で己に歩止りのままですが、優れた絵を見ようとする意欲や、美しいものを、素直にうけとめて生きることの出来る素養をつけていただいていることは有りがたい幸に思っています。

今思えば、先生が僅かな同好の生徒に、場を与えて下さったことご自分の仕事もそこそこに培って下さった先生の温情を忘れることが出来ません。

前述の陽炎会は、美術部の前身ともいうべきものと思います。

×◇

上田の西方、塩田、青木方面から通学していた学友団は、長い歴史をもっており、私の入学した頃には、互に昼夜を問わず交わす言葉をもっていました。

それが「おはよう」であります

その声が小さいと互に戒め、上級生から、注意されたものでした。

従がって、数が集って交わすときは、聞いてうるさい印象を与えたことでしょうし、特に、電車通学が出来てからは、かなり乗客の迷惑にもなったと思います。

しかし、当事者は「おはよう」を掛け合うたびに、力強いものを感じ、質朴な誇りに酔ったものです。バンカラを自讃した若々しい意気でもありました。

さて、大学を出て、教師になり昭和十七年、屋代中学（現屋代高校）から、母校に転勤した私は、上中時代の印象が、この「おはよう」によって甦ってきました。

世はもう、戦争の態勢に入っていました。終戦に近い年、当時の軍事教官から、この「おはよう」を煩く指摘され、「一億一心の時代に、何とか先輩として、あの言葉をやめさせてはどうか、師団長閣下の耳に入り、先頃注意があった。上中は軍関係への進学者が多いのに、こんな優柔不断な態度では、合格があやぶまれる。」と言われ、かなり反撥を感じたのでありますが、いずれにしても、進学の邪魔がこんなことにあってはと心配し、時の生徒指導の先生と相談して、川西方面の上級生を一教室に集めて説得に努めたのでありますが、その諸君は涙を流し、声を励まし、「おはよう」を掛け合うことによって、むしろ質実剛健を目標にしてきた。これをやめさせようとするのは、余りにも高圧的である。としてさらに「先生は私らの先輩ではない。」など悲痛な声が、室内に溢れました。

徒らに半年程が経ち、それのせいか、段々「おはよう」の声も低くなり、いつしか消えていったと思います。

然し、時折、余燼のもえあがることもあったと思います。純粋なものを、一方的に抑えることの空しさを、この時程知らされたことはありまんが、私も若かったのです。

戦後、ホーム・ルーム中心の体系的な指導がなされてきたのですが、今に思えば、校外団のこの地域的な縦のつながりも、学校生活を豊かにし、一種の社会性を育てるためには、あながち、マイナスの面ばかりではなかったようです。

時代の進展と社会情勢の変遷の中に、高校教育も制度的にも教育の方法論的にも、中教審の答申等をめぐって、新しい構想が試行されていきますが、いつの時代でも疎外してならないものの中に、高校生ののびのびした楽しい明るいたくましさを盛りあげる問題が、十分に考えられるべきだと思います。

人間の触れあいの深さや、社会の連帯感のようなものを醸成するために、社会も、家庭も、学校も、共々、もっと苦労をせねばなりますまい。

（上田市教育長）

上田高等学校校門

信濃国の国分僧寺、国分尼寺
並国府の所在地に関する考証

（13期）馬場友義

天平十年（七三八（人皇四十五代聖武天皇は、日本全国の国府長官（国司）に対し、一国毎に僧寺一ヵ寺、尼寺一ヶ寺を建立し、僧寺には男僧二十人、尼寺には尼僧十人をおいて国家の平安無事を祈らせよ、と勅命した。

全国の国府長官は此の勅命を奉じ、国府所在地に僧寺と尼寺を建立した。僧寺は之を国分寺（金光明四天王護国之寺）と称し、尼寺は国分尼寺（法華滅罪之寺）と称し、国分僧寺には七重塔が建立され、金光明最勝王経を、国分尼寺には法華経を夫々、十部宛寄贈され、更に聖武天皇の宸筆、金光最勝王経が各一部安置され、又寺領として夫々水田十町歩（三万坪）宛を寄進された。

又奈良には東大寺を建立し、総国分寺と為し、法華滅罪寺を建立し総国分尼寺と為した。

現在、長野県上田市大字国分寺に薬師如来を安置し、三重塔婆を有する寺があり、信濃国分寺僧寺の後身であると伝えられている。

創建当時の信濃国分僧寺は、その後兵火に依り焼失し、現在の薬師堂及び三重塔婆はその後の再建に係るものである。

信濃国分僧寺の址は現在の国分寺の南方の台下に四個の巨大な礎石が残っており、昔の国分僧寺南大門の址であると伝えられている。最近の発掘調査に依り、金堂その他堂塔の跡が確認され、往事の国分寺の遺跡の全貌が明らかになった。

信濃国分尼寺の跡に就いては従来その所在地が不明であり、或は、小県郡丸子町附近にあったのではないかとの説もあったが、最近の発掘調査の結果信濃国分僧寺の附近に国分尼寺の遺跡があることが判明した。

―◇―◇―

信濃国の国府に就ては、信濃国筑摩郡深志郷（長野県松本市深志）にあると伝えられている。元来、各国の国府は、国分寺並びに国分尼寺の所在地の附近に設置されているのが常例である。然るに信濃国の国府が、信濃国の国分寺並びに国分尼寺のあった小県郡上田郷附近になく、遠く離れた筑摩郡深志にあったたとについては研究の余地がある。

信濃国の国造は小県郡に居住したことや、小県郡領は此の国造の子孫が所有したこと、上田市塩田町大字下之郷に他田塚（信濃国造他田舎人大島の古墳）があること等、考察し信濃国造の所在地は小県郡塩田郷にあったと推定される。

従って、奈良朝時代の八世紀に入り、小県郡上田郷の郊外に国分寺、国分尼寺が建立されたことから信濃国の国府も小県郡上田郷附近に置かれたと推定する。

信濃国の国府が、最初、上田郷の附近にあったのを何時頃如何なる事由で筑摩郡深志郷に移転されたかということに関する史料が残っていないので現在のところこの点は全く不明である。

郷土史研究家一志茂樹は、信濃国の国府は最初の所在地は、上田市大手町附近ではないかと推定されているが、発掘調査の行われていない現在右に関する確証を挙げることは出来ないと言っている。

以上の如く信濃国の国分寺、国分尼寺、並びに国府の所在地に関する考証の一部を述べて、郷土史研究家各位の調査研究を待つ次第である。

（信和紡績㈱会長）

機器具製造

黒澤製作所
黒澤勝次
東京都世田谷区瀬田3－3
TEL 03（700）7445

本木製作所
本木欽一
東京都目黒区上目黒3－12
TEL 03（713）8225

学校の設備を充実する
財団法人 教育設備助成会
東京都中央区銀座6－6－7（朝日ビル）
専務理事　和田　斉（20回）
運動に参加する　PTA22，454校（11，534，095世帯）
運動に協賛する　企業一流会社90社
PTAへの援助金累計　1，002，480，667円
へき地学校へ贈呈（4，444校へ）　93，178，417円
（46年9月末現在）

ひるめし会
経営情報交換会

(48期) 小木曽 誠

▽企業経営は、いわゆるシステム的経営観に立ってみると、それは内外の状勢に変化、環境に対応して行動する生きた組織体であると言われています。有名なドラッカー教授の言葉を借りれば、「企業経営は変化に対処することである」ということになります。経営に関する情報の把握収集が、企業経営の必須なものであることは明白ですが、特に近年、そして特に中小企業において重要なものとなってきたことは、多くの学者、実務家の述べるとおりです。

▽かかる時（一年前になりますが）、企業経営に関係する若手の方々から「腹をうち合って話せる者同士、たとえば上田の同窓生の間で、経営研究、経営情報交換の会をもちたい」という要望が生じ議がきめたが、いつしか私が第一回目の幹事をおおせつかってしまいました。小役人の悲しさと申しましょうか、長いこと検討した末やっと八月一八日、会を開催しました。編集委員さんのご命令により、一筆ご報告しましょう。

▽目的―会員相互の親睦と経営情報の交換

▽構成―同窓会関東支部の会員で適当な人をもって構成する。ただし会の設営進行上毎回一五人程度で締め切る。

▽運営―①経済問題に明かるい人を招いての懇談②経営情報の相互交換③雑件のあっせん

▽会費―その都度出席者から必要な経費を徴収する。

第一回目は、八月一八日(水)正午から三時まで、農林年金会館で開催しました。名付けて「ひるめし会」。

案内状は、企業の役員、税理士等いわゆる企業経営に関係のある人、もっと平易に申すと上司に遠慮しないで会に出席できる若干の方々を対象とし47期以下の二八人それに顧問格の意味で、40期のI先輩、44期のH先輩の計三〇人に発送しました。名簿等をみて、なるべく案内もれのないように努めたつもりです。たまたまドルショック直後のことであり、お盆でもあり、一番時期のわるい時でしたが、それでも一六人出席しました。税務会計事務所長のH先輩は、代理者をさし向けられ、銀行支店長のT君は、会議を抜け出しての出席、手広く会社を経営しているN君は、上田から一日くりあげての帰京……。期別では、40期一人、47期二人、48期七人、49期一人、50期一人、51期二人、55期一人。職業別では会社役員九人、税務会計所長等四人、団体役員二人、公務員一人。

出席できなかった一四人中一三人までが、それぞれ丁寧に出席できぬ事情等につき連絡をしてくれ、旅先から盛会を祈ってくれる人さえありました。このような皆さんの態度に多くの単なるサラリーマンとは大きく異なるものを感じました。すなわちその真摯なる姿勢に……。

当日は第一回目でしたので、同窓会を代表して矢島幹事長にご来賓としてご臨席頂きました。幹事はもとより出席者を感動させたのは、ご帰郷先の上田から川口へ戻られた矢島幹事長が、すぐその足で会場へ直行してご出席下さったこと、および血の出るような事業の苦しみを迫力をこめて話して下さったことです。

講師は、坂井副支部長を、副支部長としてではなく、経済通（大蔵省の幹部から証券会社の重役をご歴任）ということでお招きし有益なお話をお伺いしました。全体的に時間がなくて質疑応答できなかったのが残念でした。もう一度だけお話を頂けないかという希望が多いようです。しかし講師謝礼の面では、副支部長の立場に立って頂き、省略させて頂いた幹事の、失礼さも堂にいったものです。

当日は矢島幹事長の事前のアドバイスに従い、出席者にそれぞれ「歩んできた事業生活の反省と現在の心境」「将来考えている事業発展の試み」の二点について話をしてもらいました。いい年をした出席者が、他人の経験談に一生懸命耳を傾け、メモをとる姿が印象的でした。

席上、会合は一年四回開催、幹事は二名ずつもち廻り、（次期幹事は47期牧内、48期小木曽）、本会を永続させることを決議し、「もう十年間、トンネルを掘っているつもりで、脇目をふらず業務にばく進しよう」（一五〇〇人の成長会社を背負って立つY君の言）を合い言葉として閉会しました。なお、当日の会費は一、三〇〇円。

ただ今小生のところに、「もっと何回もするように」「ひるめし会ではゆっくり話せぬので夜開こう」等種々ご意見がよせられています。

▽私は、本会を通じて、関係者の皆さんが実に真剣な態度で業務に励んでおられる様子に深く頭の下がる思いがしました。ただ皆さんが、ご自分の業務に熱心なあまり、経済界全体の情勢把握とか、経済行政の分析とかいう点においては、それぞれ自ら反省されていたとおり、若干欠けるものがあるのではないか、と感じました。かかる点において、冒頭に記したとおりこの会は存在意義があり、今後も続けて開催する必要性を感じました。

どうぞご希望の方はふるってご参加下さい（〇四八二－五一－三四一四牧内又は五八一－六三六一の内線四三、四四小木曽）なお、次回は十一月中旬開催となっていますが、多数の方々の都合がつかぬので一月になるものと思います。

（行政管理庁行政監察局副監察官）

日本の息子とアメリカの息子

(35期) 掛川長平

一九六三年六月、シアトル市郊外の丘陵で、ピュージェット湾の夕映えの美しさに感嘆していた時背後から、私をこの丘のドライブに誘ったミセス・クロウの声がした。

「十七才で世界を見るということを、あなたはどう思いますか？」

「若ければ若いだけ、人の眼は澄んでいるから、それはいいことでしょう。」私は答え、それが彼女の長男リチャードを伴って欧州を廻るきっかけとなった。

今、日本は世界一の外貨保有国となり、海外旅行の観を呈している。

この五月、来年大学を終える倅の次男がアルバイトに通い出した。アルバイトしなければならぬ理由を私は見つけることが出来なかったが、例の親子間の断絶で、彼の側の理由を訊くことが出来ない。女房に探らせると、親しい友人達とフィリッピンに行きたがっていることが判った。

元駐比大使の甥が仲間で、従って歓待を受けることをあてにし、他には格別の目的がないらしい。

ある夜息子の帰りを待って、私は言い渡した。

「我が家は目的もなしにお前を海外に出せるような身分ではない。比島などもっての他だ。但し年末懸案のドイツ語総仕上げのため、ドイツに行くというのなら、話は別だ。出来るだけのことをしてやろう。」

六月、息子は単身、北欧、ウィーン、チロルを経て、ケルンの語学研究所で月余の講習を受ける計画で、その間、ドイツ人家庭で、ドイツの日常生活を、膚で経験する。

十月、帰って来た息子が、その貧乏旅行の報告をした。

学校帰りに、バス代の小金がなく大きな紙幣をさし出すと「つり銭が無い。お前は日本人だろう、降りてよい。」と放免してくれ、しめたと思いそれから何回か意識的にその手を使った、といった次第である。

さて、私が書きたいのは、その先のことだ。

ドル価低落の影響があったにも拘らず、指示の通りケチケチ旅行を通したのだろう。残して来た何がしかのドルを差し出して息子は言ったものだ。

「このうち百ドルは貰っておくよ。アルバイトした分だから。」

私は返す言葉がなかった。八年前のアメリカの息子リチャード・クロウのことを私は思い出した。彼はあの旅の費用を、借用書を書いて両親から借りたという。

三年ほどして、彼から、あの時の借りは皆返したという手紙を貰ったことも覚えている。

アメリカの政治はドルを濫費し収拾のつかぬ混乱を世界に与えたが、アメリカの市民は日本の親ほど、親馬鹿ではないようだ。

（慶応大学教授）

ノスタルジア信州「上田の冬」によせて

(31期) 小山一平

故郷を離れて全国各地でご活躍されている皆さんと、ふるさと上田との交流をはかる目的で「ノスタルジア信州」の会の計画が進められていることは、先の会報でご承知のことと思います。

この会の使者として「郷里上田の秋」をお送りしましたが、ひき続き今回は「上田の冬」をおとどけします。

学生時代、ともに高歌放吟した野山、そこには人それぞれに青春の輝かしい思い出が残っているはずです。

私は上田市の美しい自然と豊富な文化遺産を皆さんの思い出といっしょに大切に守っていきたい、それが故郷に残ったものの義務であると思います。

「上田の冬」は一枚の紙片にすぎませんが、短かい文章の間から豊かな自然に囲まれて変らない人情と楽しい行事が伝えられているふるさとの、こたつのぬくもりを感じていただけるならば、こんな嬉しいことはありません。

公害と、都会の喧騒の中へさしあげるささやかなふるさとの使者を、どうかかわいがってやってください。

（上田市長）

「松尾税友会」発足
初代会長に 丸山英人氏

(58期) 赤池三男

上田高校出身者で税界在職者の親睦会が、十月十九日(火)、東京は農林年金会館でその産声をあげた。

来年度は、ついに十一兆円をこえる予算が組まれるが、その約九割が国民の税金でまかなわれる。税負担の軽重という国民の声は別として、日夜、その歳入の完遂に陰の努力をしているのが税務職員を初めとする税理士、公認会計士の諸兄。税界の一致団結と親睦の会は、開校以来、七十周年を迎える今日まで、永年、望まれながらも発足には至らなかった。

七十年という税年と、(36)丸山英人氏が、大阪国税局長就任という、上田高校開校以来の大蔵省の大物官僚を出したのを契機に、ついに結成、発会にふみきったもの。

当日は、早くから会員がつめかけ、四十一名が集まった。

遠くは、大阪から丸山英人氏、長野から(36)平林栄、(45)山崎彰男の両氏が、かけつけた。また、同窓会関東支部幹事長(31)矢島五郎氏にも列席をいただき、祝辞と、激励（実はハッパをかけた）を賜った。

会は、正刻六時半に(58)赤池三男の進行によって開会され、(34)矢島英雄関信首席監察官の挨拶に続いて、(36)松下高吉関信所得税課長の発会趣旨説明が行なわれた。

会名募集では、「大太郎山会」「上田税経会」等の応募があって討論の結果(33)飯島力夫先輩の「郷土色をそえ、税界の集いを判明させるもの」意見をとり、全会一致で「松尾税友会」に決定した。

また、役員選挙では、会長に、(36)丸山英人大阪国税局長が決った。

以下、決定事項は次の通り。

一、役員。

会長 (36)丸山英人 大阪国税局長

副会長 (24)石井操 公認会計士

(34)矢島英雄 関信局首席監察官

幹事長 (36)松下高吉 関信局所得税課長

幹事 (33)西沢三郎 公認会計士

(40)小林郷司 〃

(42)高木公喜 上田署法人調査官

(52)佐藤春好 本所署会計係長

(58)赤池三男 国税庁総務課

会計幹事 (47)牧内操 税理士

(51)清水順 東京局直税訟務官室

一、会費。

年、一人、三百円。（十一月三十日までに(51)清水順まで送付完納のこと）

などの決定をみた。七時二十分頃から宴会にうつり、同窓会関東支部副幹事長(36)神野勝男氏からの祝電披露の後、全員の自己紹介があった。自己紹介では、税務訴訟で、原告と被告関係が同席したり、以前同職場にいて、十年ぶりに再会した者、美声を聞かせる者等、笑いころげたり、なつかしさのあまり涙を流したりで大騒ぎ。

最後に皆んなで肩を組んで、校歌、応援歌など声のかれるまで合唱し、九時すぎに解散した。

なお、長野県在住者から「発会式を東京でやるとはけしからん。次回は是非上田でやるべし」との強い要求があり、幹事一同「申し訳ない。次回は是非……」と冷や汗。

とにかく、楽しい集いであった。「こんな楽しい集いが今日までなかったのは、先輩の怠慢」とのヤングパワーの突き上げもうなづける話。

なお、会員資格は、税務職員およびOB、税理士、公認会計士とそのOB。

（国税庁総務課）

上田市観光課への協力について

人生には青春がある。感激性に富み実行に敏なるものは、これ青年なり、と訓し教えられた青春の日が、われわれ上田高校に学んだ同窓生の心の片すみに残っている。

故郷を同じくし、同門に学んだ感慨は、同窓生という言葉で固く結ばれている。

星霜流れて、今われわれは故郷を離れ、母校を巣立って関東の地区にそれぞれが活躍している。

上田市の町並みも変ってきた。都会に劣らぬ物資や建物も豊富であり建設されている。

しかし、人間界のそれとは別に春秋の、自然の風物は美しい新緑と、すばらしい紅葉の景観を変えてはいない。

四季の自然美は、それ故にわれわれの心にとって、いつまでも慈母の心であり、揺籃の地の忘れ難き郷愁でもある。

上田に生まれ、上田に育ち、上田高校に学んだことの幸せを、つくづく有難いと思う。

上田市も大きくなった。郷土の景観を守り、そのかみの上田健見に、あらためて上田の風物を見直してもらおうと、上田市観光課が活動し始めている。

「ノスタルジア信州」のかけ声で、職員諸氏の素朴な情熱をもってわれわれに呼びかけてくれている。

私たちは、素直にその真情をうけ入れて、上田市の観光に協力もしたい。

特にひとこと申し上げたいことは「会員制にして年会費の納入により如実にその協力の心を示す」などということではない。

拘束されない立場にあって、観光課の教えてくれた故郷の風物、旧跡のそれを知り、見直したふるさとへの再認識が心をゆさぶってくれたら、観光課の努力も報われたものと私は思う。

「信州の、上田っていいとこだぞ」と、われわれが自他に大威張りで言えれば、それでよいのだと思う。

我れも懐かしく上田を訪い、また上田を知らぬ人も誘われて行楽の歩を運ぶことでもあろう。

心の協力が尊く、上田の美しさが世の人々に分ってもらえればよいことでもある。

それが私たちの協力だと思う。

配られたパンフレットを素直にみて、「は、はあ成程」と感嘆してもらえたら観光課の努力は充分につくされていよう。

そして、そこは、われわれのふるさとであるのだと。

(31期)（矢島幹事長記）

うえだ チェーン

総武線本八幡駅前

●楽しい語らいに
レストラン うえだ
味も電話も三国一 市川 35-3591

●親しみを増す御宴会に
別館 うえだ
同期会にはヨロシク 市川 34-4649

●一家揃って味のとんかつ
うえだ本店
市川 34—3591

●ドライブのお帰りに
うえだ 南八幡店
京葉道路市川インターそば 市川22-3591

味噌汁は信州直送 手前ミソ
どの店にも信州人がおります
川村 英紀 (58期)

★東京瓦斯株式会社
東京都中央区八重洲1の3 電話(273)0111(大代表)

東京 農林年金会館

憩…宿泊室（和・洋127室）
幸…結婚式場 衣裳室・美容室 理容室・写真室
宴…大ホール（500名収容） 大小宴会場・食堂・グリル
話…大・小会議室 階段研修室等料理教室

東京都港区芝西久保巴町36－1
東京 03(432)7261
（地下鉄・日比谷線・神谷町下車二分）

益々盛ん

20期

五十年目に恩師慰問

感激の再会

（20期）石井保

今から五十余年前、大正八・九年の二年間上田中学校に教鞭を執られた数学の北村友吉先生がおられた。

私達は四年と教えを受け、卒業とともに先生も転属の相生に越されて行かれた。

先生の愛称は金魚といい「金魚金魚」と人気者であった。上田を去られる日、決別の印に「コバルトと金魚鉢」を購った同期生がいた。

爾来、五十幾星霜が立ち、同期の集りには金魚先生の話題が上って座を賑わしたが、それらはすべて過ぎ去った少年の日の想い出の中に生き、それ以上のことはなかった。

一昨年、上田市郷土研究会で相生方面の視察旅行を機会に同期の四名（内二名は会員）が金魚先生訪問の機会を得た。先生宅は相生駅から五分の所に在り、駅から自宅までの道順を丁寧に示してあったと話題を呼んだ。九十六才の高齢で、今尚大学、高校入試の学生を相手に指導を続けられて、実に社会を後ろ御活躍振である。

私達同期の集りは年に二・三回は開催され、その都度、金魚先生は訪問されより、死なれないうちに訪問旅行をしようといっていたことが実現された由である。

この計画は六月頃から始められ、八月の別所会にて十月二十六・七日と訪問の日程が決った。参加者十七名。さて、九月二十六日正午には上田と東京の両駅は高崎駅に結集した。折しも二十九号台風の余波で物すごい風雨。その日は赤城山麓恩賜温泉に一泊。明けて二十七日は台風一過の快晴で、初秋の赤城山麓の山々は錦絵に照り輝いて絶好の訪問日和に恵まれた。一行はマイクロバスで一路相生の屋敷へ宅に着った。午前十時着、先生は坂の斜面に在って相生の町が眺められた。

玄関に国旗が掲げられ、一寸異様に感じたが、後で聞いたら、天皇の欧州旅行に出の無事を祈念し、旁々諸行を歓迎する意味もあったと語られた。居間の八畳には、テレビ、机、茶タンス、その他が立ち並ぶ中に十七人の教え子が恩師を囲んでギューギュー押し込むように座り込んでの挨拶が、一瞬、五十余年の不思議と思われる再会で、何とも云えぬ幻想の中に引き込まれた。一対十七の対談はその時から間断なく続けられた。

目を細くし、あるいは閉じて、やおうっとむき加減で、五十余年前の追憶を思考するかのように語る話調は聞いて確かである。とても九十六才とは思えない。頭の体操、人間、頭を思考する所に長寿が秘められているかも知れないと説明される。近くに田も、畑もあり、稲作は自宅にて営まれ、専ら畑の野菜作りは御自分でやるとおっしゃる。二・三年前までは四十人もの学生がせまい部屋にひしめき合って教学と取り組む学生塾であったという。この間先生のお嬢さんとお二人の孫娘さんはお茶の間、居食の支度と忙しの間るほどの身動きできない。正座で、町の料亭で居食を共にする計画であったが、米はみが用意され、最新鋭の幸りであった。門先に出て、日の丸を入れての記念撮影である。続いて健康を祝しての万才三唱。先生父娘の目からは涙が流れ落ちる。十七人の同期生も次々に涙を浮べ喜れて「お元気で」と云って行く。

玄関脇の樹木に体をもたらして先生に導く。

「涙と飯なしに語れない」とは、この事かと思った。

二・三年前までは四十人もの学生がせまい部屋にひしめき合って教学と取り組む学生塾であったという。この間先生のお嬢さんとお二人の孫娘さんはお茶の間、居食の支度と忙しの間るほどの身動きできない。正座で、町の料亭で居食を共にする計画であったが、米はみが用意され、最新鋭の幸りであった。門先に出て、日の丸を入れての記念撮影である。続いて健康を祝しての万才三唱。先生父娘の目からは涙が流れ落ちる。十七人の同期生も次々に涙を浮べ喜れて「お元気で」と云って行く。

玄関脇の樹木に体をもたらして先生に導く。

「涙と飯なしに語れない」とは、この事かと思った。

上田中学第十三期会

（13期）馬場友義

昭和四十五年十月二十日（水）寝た。

秋晴れの軽井沢万平ホテルにおいて上田中学第十三期同級会を開催した。

出席者は、東京側、幹事馬場友義、長久保保実、志摩芳郎、志摩喜一、杉山茂、佐藤朗作、船崎己代吉、同夫人、郷里側、幹事佐藤五郎、横沢継次郎、依田誠、花岡五郎、伊藤壮一、岡川鷲、同夫人以上十五名の多数に達し、すこぶる盛会であった。

午後六時、東京側当番幹事馬場友義の司会の下に、先ず、最近物故された同級生花岡和美君の冥福を祈る為、一同起立して、一分間の黙祷を捧げ、次いで盛会幹事佐藤五郎君の略歴に依り直ちに開宴した。

其の後は万平ホテルで一泊し、翌朝、郷里側幹事依田誠君の骨折で、五月中旬、上田千曲川つけ場のハイ料理で、東京側、郷里側合同で上田第三期同級会を開催することに決定し、出席会員一同、佐藤五郎君より心尽しの御土産を戴いて、午前十時頃散会、それぞれ帰途に就いた。

上中三三会

（33期）弘世弘信

八月七日、上田温泉にて例会有志名も、九年前の昭和三十八年夏の終戦記念会でした。その時は、お互の氏名と顔とが一致せず席ごとに名札をつけて再会を欲びあい、口、みんなで〝三三会〟と命名しての歓迎の歓会を催し、馬場幹事の閉会の音に依り、盛会裡に宴会を終え第一回の集りで再会しましたのが六十に溢れたものでした。同期会ってこれでいいんです。これだけでいいんです。

今年は昭和十四高校と長になれた高下善平種先輩をお招きもし東京より九名、地元より十五名の計二十三名が、少年時代の思い出深い千曲川畔に、再び元気で集りえました。この歓びと、このひとときをわかちあい十年ごとしましょう。

（総社重夫記）

東京二六会

（36期）田中六郎

去る十二月十一日、池袋の八幸閣において、東京三六会が、開催された。

集って来た同期の面々の顔には白いものが、いっぱいあるもの、ハゲあがって、ヒタイがひくなったのなどが多い。少々、緊いものには、驚きつけないのは、入れ歯のせいか。体の動きは、どなたもにぶくなっているが、口の方はなかなか達者である。一人一人の近況報告に対し、ヤジがとび、立往生させる光景が、あちらこちらに見られる。なにが、そんなに面白いのか、爆笑の連続である。

業資として、矢島五郎幹事長が来場するとの知らせが起こる。いつも、ご招待しているので、三六会の会員にとっては脱懇（じつこん）のあいだがら。大先輩のあいさつにも、素直なきに聞くようなお綿情況にない、酔いが回わってきたが、歌はさっぱり出ない。久しぶりに出席した北村季吉が小学校の校長になり、出席はできなかったが、九山英人君が関西の国際局長になった、なる報告され、喝采をうけていた。

又、数日前、幹事に一通のはがきが届いていた。

「酒と飯なしに語れない」とは、この事かと思った。

東京二六会

（36期）田中六郎

去る十二月十一日、池袋の八幸閣において、東京三六会が、開催された。

集って来た同期の面々の顔には白いものが、いっぱいあるもの、ハゲあがって、ヒタイがひくなったのなどが多い。少々、緊いものには、入れ歯のせいか。体の動きは、どなたもにぶくなっているが、口の方はなかなか達者である。一人一人の近況報告に対し、ヤジがとび、立往生させる光景が、あちらこちらに見られる。なにが、そんなに面白いのか、爆笑の連続である。

業資として、矢島五郎幹事長が来場するとの知らせが起こる。いつも、ご招待しているので、三六会の会員にとっては脱懇（じつこん）のあいだがら。大先輩のあいさつにも、素直なきに聞くようなお綿情況にない、酔いが回わってきたが、歌はさっぱり出ない。久しぶりに出席した北村季吉が小学校の校長になり、出席はできなかったが、九山英人君が関西の国際局長になった、なる報告され、喝采をうけていた。

又、数日前、幹事に一通のはがきが届いていた。

「酒と飯なしに語れない」とは、この事かと思った。

34期生別所温泉に集う

同窓生物故者の法要も

（34期）島川吉兵衛

我等二四期生は昭和二年卒業組で総員（一七名です。現在上田地区と関東地区で夫々同期会が行われていますが偶々今年は十月七日から七日にかけて別所温泉相別荘で合同同期会が行なわれました。現地出席者三十名で、関東地区からの出席者十七名で合計十九名でした。

我々この同期会は昭和十二年から経験まこの約九年間が戦争の影響やら兵地への進出者多数のため、又終戦後の混乱期も含めて東地区での会は約十五年のブランクがあって昭和二十五年に初めて七名の会がもたれました。

以来年毎に情況の変化がもたれています。さて愈々今回の合同同期会の実現となった訳であります。

今回集った諸君も最早五十路を越えた人が多い事と思います。戦争、敗戦という混乱期に青春期を過した我々二四期生は全部が戦争犠牲者でないにしても五十七名という沢山な物故者を出し今回集った諸君も最大な心労と貴重な体験を経て来た人が多い事と思います。

幸いにも諸君の御健在の知らせを受けた時の喜びは、何とも云えぬ感激でした。

諸君の想いは四十年も前に机を並べた放入学の面影がよみがえり、懐かしい顔、顔ばかりの再会となりました。

当日の集会者は次の通り。

清水勝　馬場良太　三宅正人　坂井修一　小山定雄　今井斌　高橋厚　赤川惣三郎　布施信夫　布施美智子　順不同（敬称略）

第十九期クラス会開催について

（19期）布施信夫

去る十月二十四日、上田高校園東支部幹事会の郷土訪問旅行がある。時を同じくして、上田時代の第十九回クラス会が新戸倉温泉湯元旅館相別荘に於て開催された。

当日は天気に恵まれ最高の一日であったが、集合入員は早より雨ふり模様の空を越した。

そしてその更けるのも知らず、ネオンの光り輝く、チマタに散っていった。

（三澤土地調査取締役）

然し遂は群馬県の山奥からわざわざ自動車によって来られた君。又東京からもはせ参じ、秋の夜長を利用しての、上田時代の懇親会あいあいの裡に大いに談論風発であった。殊に赤川君の論旨は胸を打ち、眼を潤かして拝聴した。

そしてその更けるのも知らず、酒のまわるにつれて、各自の隠し芸や会歌の続出で時のすぎるのも知らず、宴の終ったのは真夜中の二時だった。

精密歯車装置設計製作
精密機械仕上加工及組立

若葉精密工業株式会社

取締役社長　土屋学　(31期)
専務取締役　土屋博　(47期)
取締役　土屋孝　(44期)

東京都目黒区八雲2－8－5
電話（723）1717（代表）

布施歯科医院

院長　布施信夫　(19回)
副院長　布施淳子

東京都豊島区西巣鴨2の34の18（都電　庚申塚下車二分）　電話(910) 3237

会社・工場給食

入山食品株式会社

代表者　入山一徳　(48回)

三鷹市下連雀4の7の27　電話　0422－43－4783

同期の集い

異色 合同クラス会!!
上中・上田高女三一会

コレガ合同三一会のメンバーだ

何年前、そして何月頃であったろうか。ヒョンなことから上田高女の三十一回生と、俺たち上中三一会とで合同の会合をひらいたことがある。同期の誼みでというわけだ。

左様、思えば七・八年前のことである。しかしそれが暮れであったか正月であったのか、これもハッキリ覚えていない。

いや。タマゲタな、女性軍からお誘いを受けたのだそうだ。

俺たちの会には物好きなオカシナ野郎がいて、忽ち檄がとび、明夜、国電エビスの某所に集れときた。欠席するとウルセエから早速に出かけたわけだ。

楽しかったな、あの会は。何しろ発起人側だけあって、女衆の方が二・三人は多かった。最初は、しようしかったが、すぐふるさとの想い出話に賑わった。甘ズッパイ校庭運動会の想い出や、松平(しようへい)神社の桜狩りなど、純情な若き日の回想談が続出したってえわけだ

ゼヒ再会をと誓い合って別れた筈だったが、次回幹事役を引受けた奴が、その後トント音沙汰せず、あれから七・八年が夢の様に過ぎちゃっていた。

少年の日の淡いユメそのままに。………ところが今夏八月三日、遊び疲れた幼な子が、ヒョロ、ヒョロ、ヒョット帰ってきたように、また合同で開くから、わんだれ必ず出てこうやときた。そして檄文中には、三選した小山上田市長と別所地区初当選の竹内上田市議の激励を、更には今春、円満退職した小宮山前東京駅長の慰労をも、兼ねて上中三一会をひらくという。

そのまた追記が、タマゲタな、久々に上田高女の方々と、ときた。市長や市議や駅長より、俺は追記が気に入った。流石に今度は土手ガラス族が四・五名は多かったそれがこの写真である。………ふるさとが懐しい、小山も竹内も来てくれた、にこやかに小宮山もいる、そしてまた往年のホワイトライン、お下げ姿の女学生が、デンと控えて丁重に迎えてくれた。アワテタな俺は、カーット顔が赤くなった。

話は前回の想い出から、再び千曲や太郎山の話題など、白髪や入歯も忘れていた。またしようしくってオカシカった。楽しい少年の日の夢は美しくよみがえった。

明年二月は必ず開催ときめ、小宮山庄三、柳達雄がこちらの幹事、あちらは橋高雅子、永島礼子の二女史ときまる。真面目な連中ばかりだから、キット実現されると思う。………その時は、ゼヒおいだちも出てこいや、な。

(特別記者X)

東京三七会
(37期) 関 邦雄

○小出政造－稲城第五小学校々長(杉並区立泉小学校教頭より)
○関邦雄－東京税関晴海出張所々長(同外郵出張所々長より)
○堀内敏雄－日本鋼管(株)鶴見造船所副所長(同重機部次長より)

名古屋地区では長屋(旧中沢)治が長屋印刷(株)社長として、広範囲にわたり事業をして社運の隆盛に努力しており、関芳弥は名古屋国税局特別整理第二部門主査として滞納整理に活躍している。

加えて、深谷秀和先生も愛知県教育研究会で健在であり、ともに師弟の交り極めて密なるものがある。十月十八日、同地を訪れた際三氏より多大の歓待を受け、今昔の話題に花が咲き、夜の更けるまで痛飲した。

東京三七会が開かれたらそろって上京する由、また同級生諸氏によろしくとのことであった。

なお、東京では来年一月二十二日か、二十九日に開催する予定。

甲子園の集い開催
(56期) 堀内 幸

時、十月十六日。五六、五七、五八期、関東支部有志、十五人。

—上田高校開校以来、初の甲子園出場の偉業達成の期の有志。

本八幡、レストラン「上田」五八期川村君経営にて、一発やらかした次第。ヤングパワーの最先端を自負する、三期の有志、おおいに旧知を、いつくしむ。かつての土手ガラス共が、童心に返った一時であった。次回開催を約し、別離を惜み、宴を閉じる。

この日、我が上田高校三六期の大先輩神野先生が、我々の招きに心よく参加していただき、一同三顧の礼にてお迎えした。かの矢島先輩(三一期)が、都合にて参加していただけなかったことだけが、心淋しく感ず。

次回の開催には、一人でも多くの土手ガラス共の参加を望む、同期諸君の密なる連絡を望む。

わんだれ何しとるか!

一人でも多く集まり、幹事をうれし泣きさせてくれ。

‖道 標‖
我が途の進む多々あり同窓生

(一) 各期卒業生の同期生会について

関東支部会の中には、各卒業期生毎に、それぞれの同期生の集いがある。卒業期を冠した名称をもって、その集いの呼称としている会合が多い。

故郷の上田地区にも関東とは別に、同期生の会合があり、期別毎にはよくまとまり、同期生の集いとしては、かなりの団結と友和をもってまとまっているらしい。

近年、この在京同期生の集いと在郷同期生の集いが郷里において或は東京において合同の会合をもつ機会も多くなってきているようである。

そして、その同期生会の中でも三十期代の同窓生の中には、単に現存する同期生のみの集いでなく、故人となった同期生の、みたま安かれと祈りつつ、故人の御遺族をまで御招待して、腕白な頃ほい共に学びすごし来た学友の、今はその瞑福を祈りつつ、慰霊祭を兼ねての会合がひらかれてもいる。

長い人生を歩ゆみきた、生きとし生ける友として、故人となった友を弔う尊い学友愛の表ともいえよう。

こうした意味の会合や集いは、他から進められ、或はおしつけられて催されたものではなく、真心をもって企画されたもので、四十路をすぎた人間のヒ弱な心のあらわれと、笑うことは止めておこう。

先輩たちのこうした在京・在郷の友相集う会合のあることを知って、くわしい説明をきかぬまでも後輩、特に若い後輩諸君が、何か心に感ずるものがあったなら、我我は何も言うことなしともいえる。

交友の真情を素直に眺めみて、己が将来の、心の和合の友を得る一片の尊い会合の報告の一つとして、みてもらえたら望外のよろこびでもある。

(二) 各運動部OBについて

前述同期生の集いは懐かしく、一大団結の下に会合した同窓生大会の感激も、また別の意味合いから嬉しいものである。

だが、またそれとは別の意味合いから、青春の血潮をたぎらせて一点、二点を争った各運動部に籍をおき、思う存分とび跳ねた、あの青春のスポーツマンとしてのスクラムは何んとも言えぬ想い出の数々で一杯である。

一球一蹴に情熱のすべてをかけ号砲の一発にスタートの青春を爆発させて力走又力泳する。若き日の歓喜と涙、そこに結ばれたスポーツマンの交友は、別して感激の日の交りでもあった。

そうした運動部OB会の集いも関東支部会の団結の成長と共に、「お、君も来ていたのか」との支部大会の大集会を契機として、昔なつかしく再び強く再燃し、曰く「上田松尾球友会」、野球部員の団結が、ガッチリその団結の旗印を上げてくれた。

そしてまたその以前から、教課目であった柔道部の「柔和会」が久しき以前から根強い結束のスクラムを組んで、関東の地に周いからせてガッチリと取組んでいる。

さてまた名乗り上げた若武者の集いには、上田高校ハンドボールの結束がある。称して「松門会」と呼称、第四十八期のサムライ共が中心となり、後輩諸君をよくまとめ、年一度はボールも握っての実戦を具現する張切りぶりである、

松尾城頭に涙した、勝利と敗北の若き日の想い出は、こうした団結の会合に今も強く結ばれている。

更に別の動きとして、いづれは俺たち運動部もと、それぞれ企画団結努力中の運動部の動きもある。

陸上競技部の団結は、久しい以前から掛声のみは盛んであったが関東地区では発会式までにはゴールインしていない。しかしふるさとにおいては、陸上の陸と、真田六文銭の文をとり、陸文(りくもん)会と称して、しっかりとまとまっている。年に一度か二度の会合があり、在校現役員も交えての陸文会は心温る会合である。

どうして関東地区にも生れぬのか、心せよや関東勢と一喝の暴言を許せ。……本月二十七日(土)には、故郷でその陸文会の会合もある。関東から馳せ参ずる今は昔若き日の競技部員もあることを加筆しておく。

最近とみに盛んとなったサッカーの進出はめざましい。

昭和の初期には蹴球部と称して我々の上中時代には、一番ハデな存在の運動部であった。赤と白のダンダラの、その頃にはオドロキのユニホームで、校庭を疾駆していた雄姿(?)がなつかしい。今こそ結集のよき時でもある。

五十期以下の後輩諸君が、悶々としてその団結をあせっているがなんとかならんかと、ハッパをかけて傍観している我が身もツライ。一蹴大空にその孤々の声を上げさえすれば、関東支部も応援するにやぶさかでない。

時ぞ今、晴れて名乗れよサッカー部。分ったか。

……この外に、各種運動部は幾多ある筈。自然に燃え上る団結の集いを待って、各位の会合を楽しみに待とう。

(三) 各種同好会の集いについて

同期生の各集いが生れ、運動部OB会の会合も結束されてきた、それとは別に、職業的見地から、上田高校同窓会、関東支部会員有志による経済懇談会なる会合も誕生した。

この会合に追かけて、税界在職者やOBをもってまとまったところの「松尾税友会」なる集いも名乗り出た。

いたずらに我が関東支部は、若き日の郷愁にのみとらわれた同窓会の活動ではなく、現代に息づいている己が職業の同業のサムライ共の叫合にまで発展してきている。

誰れがほめなくとも、私はすばらしい団結だと思う。先輩が後輩を引立てる、後輩はそれに甘えずして努力する。美しく尊い結束だと思う。今、私は学校関係の在職者や医学、建設、官庁、マスコミ文化、それぞれの分野における、こうした会合の次々と生れ出ることを楽しみにしている。

(十勇士)

上田を舞台に
宿願のメロドラマを
宮下 幻一郎

(38期) 小林 増太

ふるさとの地を訪ね来て
いまははや遊子となりし
われをかなしむ

「故郷忘れ難し」という言葉がありますが、わたくしの場合年毎にこの思いはつのって行くようです。思えば作家生活に入って二十年、その間の作品を顧るとき、時代、現代ものを通じて信州を舞台にした作品が相当数を占めていることに気付き、われながら驚いている次第です。たしかに作者にとって、自分の精通しているふるさとの地を作品の舞台に選ぶことは、安易であり安心感のあることは否定できませんが、ただそれだけではなくそこには胸深くいつも燃えつづけている、ある思いがあるからだろうと思われます。

わたくしの創作の根底には、かつて、山紫水明のふるさとの地で、はぐくみつちかわれた感傷やロマンチシズムがいつも秘かに息づいているようです。

さて、わたくしはかねてから上田を中心に北信地方を舞台にしたメロドラマを書いてみたいと思っておりましたが、今度、「国際放映」でわたくしの原作脚本による連続テレビ映画「燃ゆる運河」を制作することになり、どうやら年来の宿願を達する機会を得ることになりました。これには上田地方の風物をふんだんにとり入れて、信州のわがふるさとを広く紹介すると共に、新しいメロドラマを創ろうと意欲を燃やしておりますが初めて手がけてみるメロドラマには、メロドラマの約束ごとがあり、考えていたような安易なものでないことを痛感した次第です。

たとえば、女主人公(ヒロイン)ですが、自主性の乏しい、いかにもおとなしい感じの旧い型の女性でなければならないのです。これはメロドラマという特質上、破ることのできない一つの型なのです。考えてみれば、われわれの実生活に於て、己れの明日の運命を的確に予知し、それを冷静に判断して自主的な行動をとれる者が、果しているだろうか。メロドラマのヒロインが悩み、迷い、涙するのは、自主性の乏しい古い女性であるがためではなくて、彼女こそは現実の人生そのものなのです。問題は彼女の性格ではなくて、彼女をとりまく環境、時代の動きを的確にとらえるところに、新しいメロドラマが生まれるのではないかと思っております。

放映は来春の予定ですが、なつかしいわれらがふるさと上田を背景に展開するドラマに、御期待を乞うと同時に、諸兄の御声援を給わらんことをお願いする次第です。

亡びたるむかしを語る城址の
萩生のかたへにゆらぐまぼろし
(上田城址にて)

「わたくし」は、大阪生れの「アサヒビール」でございます。いま、「わたくし」は、いささか、寂しい思いを致しております。と申しますのは、上田中学、上田高校の同窓会の方々で「わたくし」を、女として愛して下さらない方が多いからでございます。大阪生れの「アサヒビール」を、もっと愛し、もっとお飲みになって下さい。

「わたくし」の「ホップ」も「ビール麦」も、皆様方のお好きな言葉で申せば、皆様と同じく信州で「とれ」たものなんでございます。皆様方の学ばれた上田中学、上田高校は、真田の古城の跡でございます。

「関八州の精鋭を、此処にくじきし英雄の、心のあとは今もなお、松尾が丘の華と咲く」……此のような立派な校歌に育まれました皆様、精鋭を率いて関ヶ原の援軍に赴かんとした秀忠の大軍を阻止した昌幸、幸村父子、落日の大阪城の華と散った幸村、大助父子……。

この真田の遺風を引きつがれていらっしゃる関東支部の皆様、どうぞ「わたくし」を、大阪の「アサヒビール」をもっと愛し、もっとお飲みになって下さい。

どんな時、どんな処でも、どうぞ「わたくし」を「アサヒビール」を、きっと御指名下さいまし。

信州の「ホップ」が、信州の「ビール麦」が、皆様の「ノスタルジア」をきっときっと、かきたてることでございましょう。

上田中学三十六期生(ゴキブリ会)
伊藤寿士良(としじろう)
自宅 〒336 浦和市根岸団地十八の十三
勤務先 台東区鳥越二の九の十四 折笠商店(八六一－一六四一)

鋳造品の総合商社
矢島鋳工株式会社
木型、金型より一貫生産
普通鋳物 ダクタイル 砲金 機械加工
鋳鋼 ステンレス シンチュウ 製缶加工
マリアブル アルミ ダイキャスト 組立、塗装
美術工芸鋳物 記念品、御贈答に、各種社内に陳列
川口市並木町2－11－6 TEL(0482)53－2662(代)
取締役社長 矢島 五郎(31期) 取締役 林 嘉市(58期)

第3回・郷土訪問の旅

ノスタルジア信州

―上田市観光課のお世話に―

今回の旅は、本紙前号等でも御知らせしました上田市観光課の、〝ノスタルジア信州の会〟に全面的におまかせしての計画であり、又、初の催しでもあって注目されるものでしたが休日にもかかわらず出迎えから各地の案内まで御同行いただき、いたれり、つくせりの歓迎をして下さいました矢嶋課長さんをはじめとする観光課の方々のおかげをもちまして実に楽しく有意義に文字通りノスタルジアを満喫出来ました事を紙面を借りまして先ず深く感謝御礼申し上げて詳報をお届けします。

◎松茸山からリンゴ園へ

十月二十四日（日）午後一時半別所温泉たけやホテルに関東支部会員十七名が集合。上田市観光課長の矢嶋氏の出迎えを受けさし回しのマイクロバスに搭乗、塩田平を横切って鴻の巣の松茸山に向う。鴻の巣のあの奇観な山肌に対面した松林に入り早速松茸狩りにとりかかること約半刻、少々時季が遅かったこともあるが、目ざした松茸は誰一人一本もとれなかったとは――ああ無情――

ガッカリしながら料理小屋に腰をおろす、ビールで乾杯！　松茸料理が運ばれ、ヤット、おめにかかれてその香りと秋の味覚に舌つづみをうち話しも賑わう。鳥肉とネギやトウフを入れての鍋料理、ドビンと茶わんむし、吸ものに松茸ご飯で満腹となる。しめて千三百円也（酒代は別）小屋の主人に土産の松茸を売ってくれるよう頼んだが料理用にも不足がちなのでダメダと云われ、「女房がドビンを買って待ってるんですよ」と困っていた若きS君の気持、お察しします。

ほろよいかげんのまま、またマイクロバスへ、行く道すがらの、案内をしていただきつつ、上田駅にて、トイレ休止、その時、名古屋より、別所観光に来られたと申される、若き女性三人をどういうわけかリンゴ狩りにも同行の次第となる。赤く色づいたリンゴ狩りの一時も女性三人の飛び入りにて車中一段とにぎやかさを増す。たわわに実った甘ずっぱいリンゴを口にして夕暮せまる頃、再び別所温泉に向った。

同乗の若き三人を「いずみや」前にておろし、今回の宿「たけや」につく。

▲松茸料理に舌づつみ

▼開宴前の記念撮影

◎別所で親睦の宴

旅のつかれをいやすべく温泉につかり、母校校長岩下先生はじめ此の度上田市教育長になられた、山極真平氏（32期）の御出席をたまわり宴は開会された。酒宴も最高に達するやついに皆本性を現わし年輪をはなれた土手ガラス共の軍団となる。

唄い、スクラムを組み、舞う。皆、若かりしあの日の心境か？　若き期H君はT先輩諸兄を相手に快気炎をあげるほどなごやかな宴がつづいた。時の経過をうらやみつつ情熱の火さめやらぬままに床につく。いずこの部屋か敬老の宴を再会している様子、酒気をふくんだ顔に手打ちそばの味のしみたこと。

◎塩田鯉の引網

朝食がすむや昨日の観光課の矢嶋課長さんより電話有り、小島の大池？にて塩田鯉の引網に御案内いただけるとのこと、有志（ほとんど全員）一同期待のうちに大池？に着く。地元の人々のかけ声もいさましく鯉の引網が始まっていた。鯉の大群団が引網にかかってくる様はまさに戦場の如し。初めて目の前にするすさまじさに一同驚きの声ばかり。小島の地の人のあたたかき歓迎に心静かにふるさとを想い起す。御婦人方の手による鯉こくをいただき新米のゴマむすびをごちそうになった。陽に映える鯉のうろこが銀色に光り、おもいもよらぬ郷土の財宝見学を満喫した次第。水揚げされた鯉の何万匹もが水槽付きのトラックにて次々と泥はかせのため次なる池へ運ばれる様はまさに大きいの一語に尽く。限られた時間を気にしながら同行者心より小島の皆様に感謝した次第。一抹の心残し母校訪問に向った。

▲塩田鯉の引網

▼母校々長室での歓談

◎母校訪問記

なつかしや、この門。幾多の健児がふみしめた石だたみ。岩下学校長（29期）はじめ教職員各位の身にあまる歓迎を受け、はなはだ恐縮のいたり。手厚い接待を受け同窓生職員方と歓談の機会を得たことも、うれしきことのひとつなり。昼食のもてなしの心配までしていただけるとのこと。都路への急ぎ立ち時も迫り、心苦しさはあれど丁重に辞退させていただく。

いつ訪ねても変らぬ上田の学舎は昔に変らぬ熱血と向学心のめらめらともえる血脈が感じられ、この学舎に数年の才月を過したことの、誇り高さを痛感した次第。

いばらの道多くも、幾多な心苦にもうちかって上田健児の名を天下に知らしむるべくことを念じつつ校門を去る。

（H・H記）

みづほの酒やこの二次会

（58期）K・H

農林年金会館においてなごやかな、厳粛な幹事会が終ると、我々受付は忙しくなる。

みづほ二次会幹事長 夜の帝王（37）関先輩より第一声がかかる。「おい今日は何人だ？」「はい、二十二人です」「それ行け」出席した大半の連中が、恵比寿の料亭「みずほ」にくり込んで盛大な二次会のはじまりである。

世の中には勤勉と言おうか、あるいはワルモノと言おうかとにかく憎めない人があるもんです。農林年金会館の本当の幹事会には欠席であったが、みずほ幹事会に来てみると一足先に到着し、既にあつかんの四五本が空になっている幹事がおる。本幹事会には時間のやりくりつかず、よろしく仕事をおえて、みずほ幹事会に出席の由、この熱情大いにたとうべし関幹事長のユーモアたっぷりの開宴の挨拶がおわると（36）神野先輩が乾杯のグラスを高々と上げて「私が小さな声でセーノと言いますから、皆さんは腹の底から一番でっかい声で『カンパーイ』と言っておくんなすって」「ようござんすか？おい（63）三井早くつんで手もちゃげろ！」「それでは行きますぞ　セーノ」（何が私は小さな声でだ、一人の声で天井がふるえ、杯もつ我々の手がおどる。）つづいて全員で「カンパーイ」みづほのママが言っていた、皆さんの声で屋根の瓦はづれるしお陰でゴキブリも逃げだしたと。

「二次会々計係が会費を徴収致します一人千円」すると（31）矢島先輩の声「おい50期以下ちょっと立て！こんなゴミどもから千円も取っちゃおやげネェからわんだれはただでいいや」「先輩50期もいいんですネ」「何（50）半田はだめだ」「俺はいつも損しちゃう、飲むのはジュースばっかりなのに」かたわらでニンマリ笑みをうかべる（51）村田さん「ヘッヘッヘェ一つ下でよかったネ」スッと立つは（56）堀内さん「（50）期以下は全員起立、大先輩方に礼ッ」「ゴッツアンデス」若手幹事のピッチが上る出るワ出るワ各人各芸。（36）神野さんのホウキ踊りソレイチワモシンショ。（40）小林さんの望月小唄（44）星野さんのビールビンにスプーンをさしこんで、これが本当の小諸馬子唄の鈴の音だ。じっと目をとじムードいっぱい（47）牧内さんウーヤーホイ台湾とはよっぽどいいとこだそうな。

「一同起立ッ」よく立たせる会だ。応援団の面々が並ぶ（55）町島（56）堀内（57）内田（63）三井、とにかくけたたましいやつらだ「校歌斉唱、凱歌斉唱、寮歌応援歌No.1……。」腕を組み肩をいからせ汗びっしょり「あと一分であしたになりますのでこれにて閉会します」

何と楽しいことか、同窓大会の流れで恩師が、小山上田市長が大いに感激したり（36）丸山先輩の栄転を皆で祝ったり、万人集い来たりて、あたたかき酒をくむ。関東支部の団結もここより生ず。未だ訪ずれざる者ぜひ来たれよ、次回は十二月三日開宴、私は関東支部の幹事でよかったと思う。

汗と涙と夢と

＝甲子園の土＝

（56期）神津　進

さて、試合開始である。……一回を無事おさえてベンチ前で円陣をかまえた時、監督の「この分ならいけるぞ！」との気合ひとつが我々を大いに元気付けた。

監督はじめ他の選手も昨日までの私のコンデイションからみて、この一回の三者凡退がどんなにか力強いスタートであったかは言うまでもないことであった。そして、大いに気勢が上った。結果的にはこの気持が最後まで続き再三のファインプレーで試合を盛り上げ、戦前の予想を大きくくつ返して、大番くるわせ（新聞の見出し）で勝利をものにしてしまった。

しかし、まさか平安高校に勝てるとは夢にも思ってはいなかったので校旗掲揚も予想したことがなかった我々は、ホームベース上での整列に大いに戸惑った。と同時に、はたして我々に校旗の用意がしてあるのかと、いらぬ心配さえ起ってきた。が、やがてその校旗が校歌吹奏に合わせてスルスルとセンターポール上に揚っていった。それを無言で見上げる我々、さすがに嬉しかった。この時、はじめて勝利の実感が湧き上ってきた。だが、一方この勝利のため一番感激し、また一番戸惑ったのは、はるばる応援にかけつけてくれた生徒諸君であったと思われる。

聞くところによると泊った宿の主人はじめことごとくが平安高校のファンであったそうで、その人達から平安校の勝利のみを予想した同情や慰さめやらされても、しかも内心それを認めざるを得ないような対戦相手であったのだからそれも仕方がなかったのかもしれない。それを、ものの見事に逆転したのであるから、大いに気を良くしたというわけである。宿に帰ってからも宿主らの態度をよそに大いに気勢を上げたと聞いた。だが反面、この勝利のために、それら応援諸君は次の試合日までの三日間というものを、予想もしなかっただけに何の準備もなく、乏しい旅費のやりくりをしながら駅に野宿したりして、その間を過してくれたとも聞いている。が、そうした熱のこもった各位の応援をうけながら、準々決勝で対戦した広島商には、凡戦のうちに五対〇とリードされて、あっけない幕切れとなってしまったことは、まことに心苦しくもあり残念でもあった。しかし、その広島商がその年の優勝校であってみれば、くじ運が悪いというよりも負けて悔いない対戦相手とめぐり合えたということを、むしろ喜こばねばならないのかも知れない。

今年も又、甲子園のあの球場では白球を追って激戦また激戦がくり広げられた。当時はろくにテレビの普及もなく、家の中ではラジオに聞き入り、路上では電気屋のテレビの前で黒山の人が手に汗にぎって観戦したものである。

しかし、いくら時代が変ろうともあの甲子園の土を涙と汗で踏みしめる若人の姿は昔も今も少しも変わってはいない。また今後も変わらないであろう。

さて現在、母校の野球部も着実にその実力を発揮し、毎日の練習にもひたすら励んでいると聞き、まことに頼もしい限りである。

私もOBのひとりとして今後も微力ながら母校のために力添えしたいと考えている次第である。

選手諸君には、大いに奮起して我々の踏んだ甲子園の土を再び踏みしめてくれるよう心から期待して私の拙ないペンを置くことにする。

（東京ガス勤務）

〈完〉

荒井信明会計事務所
税理士　荒井信明（51期）
事務所　中央区日本橋通3の4（三伸ビル）　電話 274－4916（代）
自宅　杉並区下高井戸4の22の8　電話 302－0397
（上田市上房山町・出身）

黒心可鍛鋳鉄・パーライト可鍛鋳鉄
滝沢工業株式会社
取締役社長　滝沢勝人（21期）
本社／東京都墨田区江東橋1－15－5　電話（631）2012・6529
工場／東京都江戸川区宇喜田町2063　電話（680）6121（代表）

郷土の味を贈りましょう
信州極醸味噌
山吹
信州味噌株式会社
本社／東京都新宿区下落合1－523
工場／長野県小諸市甲2905

綜合建設業
株式会社　拓建興業
代表取締役　飯塚茂男（33期　上田市）
本社　東京都台東区東上野3－37－9
TEL 832－0553（代）
自宅　東京都板橋区南町25－5
TEL 959－3990

信州別所温泉
（日観連会員）
ホテル　たけや
竹内　正（31期）
TEL 02682－8－2828（代表）
東京案内所　562－4056（代表）

母校だより

同窓生職員が二十名

(現母校国文教諭)

(41期) 田子 檀

関東支部会員各位、いよいよご健勝ご活躍のことと拝察いたします。

激しく揺れ動く時代の中にあって、上田高校も種々問題をかかえておりますが、次代のよき担い手の育成を目ざして、学習・クラブ活動等々、日夜がんばって居ります。夏には高校総体にハンドボール・陸上・女子弓道が、定時制全国大会には卓球が、それぞれ出場ハンドボールはベスト8に進出しました。その他総体ブロック予選には陸上・水泳が、北信越には、ハンドボール・軟式庭球が、定時制の県大会には柔道・卓球・バスケットボールがそれぞれ出場しました。

秋の松尾祭・強歩大会(男子=須川↓依田↓東塩田廻り・女子=須川↓東塩田廻り)・芸術鑑賞の会(本年は音楽=東京混声合唱団等の行事も無事終わって冬を迎えようとしております。運動の新人チームの練習も絶え間なく続いております。

さて、本年四月に第29回卒の、岩下美千穂校長を迎えたことはご存じの通りですが、現在学校には全定合わせて二十名の同窓職員が勤務して居ります。卒業同数、担当教科等は次の通りです。同期の方などからいろいろお聞かせ頂ければと思って居ります。

33期 馬場 順一(生物)
〃 矢島 豪(社会)
41期 上野 隆雄(国語)
〃 田子 檀(国語)
43期 平松 剛(国語)
44期 伊藤 和彦(英語)
〃 林 六郎(数学)
〃 北村 辰雄(数学)
〃 柳沢 宏(化学)
47期 清水 周(化学)
48期 青森 恭一(化学)
50期 田中 格(社会)
〃 堤 淳郎(国語)
〃 蓼田 宏(体育)
〃 山岸 道弘(社会)
51期 倉島 陽一(物理)
〃 矢島 薫(社会)
53期 池田 閲一(社会)
54期 渡辺 時夫(英語)

【学校同窓会係】

在校生諸君へ

幹事長(31期) 矢島五郎

本紙の昭和四十四年五月二十日の創刊号と、四十五年五月二十日の第三号とに、在校生の諸君に呼びかけた一文を、上田高校同窓会の関東支部、副幹事長(36)神野勝男氏と、副支部長(23)大森頼雄氏がそれぞれ寄稿して下さったことがある。現在の二年生、三年生の諸君はあるいは記憶されているかも知れない。

共に二文とも、在校生の諸君に懐しく呼びかけた真心こもる名文であった。

本春四月本会の幹事会で、再び私は幹事長の役を仰せつかった。これから三年間、どうしてもやらねばならない。長年月を経て、関東支部も頼母しく成長してきた。

本号において、私も一筆在校生の諸君に心から呼びかけたいと思ってペンをとった。

同窓会なんて何んだろう、一部の暇な人間が面白がってやっている会合だろうと思われる諸君も沢山いると思う。全くその通りと私は肯定する。

だが、しかし君たちも小学、中学の過程を経て現在、上田高校に学んでいる。そしておそらく君たちは小学時代のクラス会や、中学時代のクラス会をもっていることと思う、その会合への出欠は自由であり自己の意思のままと思う。

何んの義務も拘束もない、共に学びきた恩師や学友との久濶のよろこびがあるだけだ。

しかし世の中に出てみると、このクラスメートはかえ難い貴い友情の結びつきとなって己れの人生を大きく支配することすらある。

在学時代は、さして気にも止めていなかった同窓生というものが、社会に巣立って年月を経ると、非常に懐かしくまた大いに啓蒙され己れの人生に強いはげましを与えてくれることもある。

「上田高校の卒業生です」のひとことに先輩は非常に親しく後輩はグット親しみを示してくれる。

本紙の第四号で右の寸書を私は前述したことがある。

東京には、各期毎の同期会が沢山つくられ、曽ての学友がお互いにその親交を温めている。

だが卒業してしまってから、集ろうとしても中々にまとまらない、もしも将来君たちが、自分たちの同期の会合を欲するならば、在学の中に同期の諸君と話し合っておくと、その集りも容易だと思う。

現在若い期の諸君が同期の集いをまとめようと非常に努力しているが住所も分らず苦心している。

そうした姿をみるにつけ、私はここにひとこと在校生の諸君に、在学の中からと老婆心までにおつたえしたい次第でもある。

五十路もすぎた私たちは、長い人生の途と、社会生活をすすんできた、己れの人生から経験したことの、楽しく愉快で大切なこと、その一つである同窓の集いのよろこびを若い後輩の諸君へもお伝えしたいと思っている。

毎年の初夏の候に、関東支部大会が盛大にひらかれている。明年は来春卒業の諸君を温く迎えたいと計画したい。しかし決して無理強いはしない。喧騒の都路に出て想い出したら同窓会というものにも出てみてほしい。

先輩づらをして私は教えているわけでもない、最初申し上げたように心から若い在校生諸君に呼びかけているだけである。

本紙にも綴られている沢山の各期同窓生の手記のそれぞれからその根底に流れている同窓生のよしみを、静かにくみとってほしいと思う。

沢山の先輩が、諸君をきっと温く迎えてくれる。

私たちが曽て学んだその校舎で、飛びはねたあの校庭で、若き日の大切な青春を悔なく存分に学びすごしてくれ給え

在校生諸君の御健勝を祈っています。

鳥帽子、太郎の山々や
千曲の清流と城門を
しのびつつ。

『神野文芸学園』開校

去る十月三日(日)わが関東支部副幹事長、神野勝男君(三六期)は「神野文芸学園」を船橋市前原に創設した。開校式に記者も参列したが、船橋市長渡辺三郎氏をはじめ、各界の有力者が列席、とくに、城西大学学長、新藤富五郎先生は、この日白内障の手術をする予定であったのを変更され、夫人に手をひかれての姿は、列席者一同襟(えり)を正した。

学園の案内書にいわく。

「日本の伝統文化を
守りたいのです」
「人間を人間として
守りたいのです」
「見えないものにも
花を捧げたいのです」
「聞えない声にも
語りかけたいのです」

園長の挨拶(あいさつ)に、「小学校三年生のとき、先生になろうと決心し、中学校(旧制)を卒業して浪人中、代用教員をし、ますます志を固め、東京に出て、ついに中等教員に(旧制中学の先生)なったが、戦争のため中断され、敗戦によって、全く人生の道が変わり、実業界に進出、東京レントゲン検診協会を創設、都内各所に診療所を開設、そのかたわら酒悦福神漬店、中島歯科医療株式会社などの経営にも参加したが、よわい五十才にして、いくらがん張っても三井や住友には、かなわないと悟った。しかも実業界にあった二十六年間、自分の本職と考えたことがなく、アルバイトでもしているような気分であった三つ子の魂百までも……。なんとか学校を造りたいという一念が、このような形で生れた。今後、のこされた人生を社会教育者として精進したい……」。と、烈々、火をはくような気魄を感じたのは記者一人だけではないようであった。

教科目を、ちよと、のぞいてみると、茶道、華道、箏曲、尺八、仏教講座、坐禅修業、と、なるほど古いものばかり、しかし、絵画日本舞踊、クラシックバレエ、と多彩。なお、写真、手芸、着付け教室までに及んでいるのには驚いた。

ちなみに、日本舞踊科の講師は染谷出身の花柳幸杷さん、写真科講師は上田高校出身の半田収一郎さん。近所に住む牧内清君(四八期)の二人の令息は早速入学手続きをしたとか。郷土色豊か。快男児、神野勝男君の前途を祈り、祝酒の酔いも回わったので辞退しようとしたら、ご長男の直邦君が、細い心づかいをしてくれ「絵画科の指導は、ぼくがやります。日大高校へ三日、あとの四日をフルにここでがん張りますのでよろしくお願いします」と、つけ加えていた。なかなかよろしい……。

文芸学園のいやさかを心から祈り、夕暮の房州の風に吹かれながら、帰路につく。(A・S記)

この永遠なるもの

染谷丘高校東京同窓会

(56期) 清水義幸

窓辺に寄ると、半蔵門、吹上の森が烟る。晩秋の絹の午後の雨。景色にも増して憂愁が身を染む。

宴は終った。華やか、優美、小波のようなざわめき。そしてこの姫の淑やかさについに耐えきれずわが真田十(?)勇士の面々の、怒号、蛮声。同窓会荒しとはよくぞ言いたる。

円陣を組み「信濃の国」「ふるさと」とつづくと、言いようのない戦慄が身内を走る。

思いは幾星霜を駆け上り、それは、芸術祭の秋の日溜りであり、汗と青いいきれの運動の部屋。夏はまた梢を渡る風の百日紅の城址、甲子園初出場の野球には目も眩むばかりの感動とどよめき。そして何より忘れ難きは、いづれの想いにも、きっと染谷丘の姫の影が濃い。

尽きることのない想いであればあるほど、身を貫くものの熱ければ熱いほど、紛うかたなき真実の青春。青春の重みを知る者にこそ憂愁は深い。

そして、惜春の情黙し難けれど心はすでに二次会に飛んでいるという次第。

日時、昭和四十六年十一月七日
午前十一時―
場所・東条会館。
出席者数・百数十名。

王陀礼会 時九月一日

王陀礼会も、早十回を数え、毎月、第一水曜日のこの会も、顔ぶれが固定し、常に十五人位。

人生を語り、世の無情をなげき、喜び悲しみも、わけあいつつ、苗木も、ようやく根をおろした。本九月一日、上田市長小山一平先輩(三一期)を、御招待したところ、遠路上田より心よく参加しいただき、一同涙にむせんばかり、市長自からの、鯉こく料理に、一同、なおさらに胸をしめつけさせられた。

くしくも、大阪国税局長に、栄転なされた、丸山英人(三六期)先輩も上京され、旧知を温めることとなった。この日矢島先輩(三一期)の、かっての教え子であられた御婦人方も、お集りいただき、会の、花をそえていただきました。

矢島先輩同期の小山上田市長、(三六期)の丸山先輩の参加により、またまた泣きの矢島先輩が、大粒の涙を、滝の如く流した一日でもあった。

上田高校同窓生のわんだれ、是非王陀礼会に、来いや、おらたちみんな待ってるに、いい会だよ。

連絡は事務局へ (56期 堀内)

▽編集雑記△

本号編集について、去る九月三十日編集委員の外に六名出席して内容懇談会をひらき、貴重なる御意見をいただいたことを厚く御礼申し上げます。

十一月六日第一回編集会議、十一月十七日深夜まで、十一月二十二日夕方から二十三日夕方にかけて徹夜で編集完了、ようやく印刷工場に渡してホット一息。御苦労さまでした。

(31)矢島五郎 (35)花岡倍
(36)神野勝男 (50)半田収一郎
(51)村田寛 (55)成沢祐介
(56)堀内幸 (56)清水義幸

以上の皆さんが、仕事も寝食も忘れて、会員の要望にこたえるために努力されたことを深謝致します。(H)

どてがらす訪問記

カメラぶらさげコンニチワ (5)

母校をしのぶ会(六校合同)

歴史的記録映画鑑賞と親睦

松浦武雄先生(旧制上田中学で昭和十九年末より二十二年末まで物理担当教諭)の上中時代の記録映画は一昨年の八月十五日にNHK・TVで放映されたので御存じの方もおられるところだが、今回は先生が教鞭をとられた六校(上中・長野高校・篠の井高校・県ケ丘高校・赤松高校・和光女子学院)の今昔を夫々編集されたものを見せてくださり、己れが出身校のはとても懐しく昔日の我が姿に感無量の場面を見、他校の今昔も感銘深く、とても楽しい鑑賞の一夕を六十余名の参加者が味わった会であった。(本校同窓生十一名出席)

仰げば尊し

恩師の慈愛

この会は十一月の十二日に市谷の私学会館で早稲田ゼミナールの後援にて行われたもので、会費が五百円(記念写真・茶菓代)ということでしたが、テーブルには、ビールと洋食のフルコースが次々と運ばれ、一瞬会費を一桁まちがえたかな?と思われたほど別の意味でも、まことに結構な集いであった。

しかし、いろいろとお話しをうかがううちに、後援の早稲田ゼミナールの小山敬吾理事長先生が松浦先生の長野中学生時代の恩師との事で、参列の松浦先生の同期生がたを"子供"と呼ばれ「その子等に教わった皆さんは"孫"である」と会場の各校OB・OGに挨拶され、教育に携わる者のみが味わえる最高の喜こびといわれている成長した教え子と教え孫にかこまれ、ひどく御満悦のようすをうかがい、やはり、嘗て高校で教鞭をとり、当時の教え子とそして教え孫共の会合に喜々として馳せ参じ、尚かつ今だにその子等の面倒を、寝食を忘れて見ている、どこかの同窓会の幹事長の姿を、まざまざと見ることができた。

教え子等に昔懐しい映画を見せてやろうと、重い機械を遠くから持って来て下さった先生、そして又、その先生を暖かく見守る先生の先生、まさに、ありがたく、尊きは師の慈愛である。

【土手野 加楽巣】

映写準備中の松浦先生

医療・理美容器具
製造販売
明光通商株式会社
代表取締役 堀内 惇
(48期)
新社屋に移りました、よろしく
本 社・東京都文京区小石川2－1－2
(11山京ビル)
TEL 815－5211(代表)
福岡営業所・福岡市横手2－551
TEL 092－57－0870

皆様のサロンです お気軽にご利用下さい
結婚式・宴会・宿泊
地下酒寮 信濃路
おはづけ、ひたし豆、蜂の子等で地酒を
楽しんでいただく望郷の酒場です
国際ホテル 八峰閣
取締役 横関嘉伸(39回)
お問合せは ☎(982)1181番 豊島区南池袋2－15－10

自動車の総合デイラー
第一種 民間車検場
車輛移動用 レッカーレーラー
製造・発売元
日本自動車総合販売株式会社
本 社・練馬区貫井4－47－43
TEL 970－5151(代)
営業所・文京区白山5－14－3
TEL 946－1401(代)
取締役社長 小市英一
取締役営業部長 小市則夫(54期)

関東支部会員諸氏の希望と質問に答えて

＝事務局より＝

今夏七月九日に開催された第十回関東支部大会の節、出欠の如何にかかわらず会員諸氏から沢山の御返信をいただきました。

その中で近況報告や質問及び希望事項等も多くありました、今回第六号の発刊にあたり、類似事項を一括し、事務局よりの御伺いやらお答にかえさせていただきたいと存じます。

（一）高令のため、或は目下病気静養中にて、記念すべき第十回支部大会に出席不能。遥かに今大会の盛会を祈っている。

（3期）伊沢幹、（12期）清水芳勝、（13期）長井村三郎（16期）斎藤照之助（18期）井出俊一（20期）小林熊光、（26期）滝沢清（31期）二村新太郎、（38期）宮島政己、（何れも敬称略以下同じ）

……右の各氏の御快癒を祈るとともに、本会に寄せられた御支援を深謝申し上げています。

（二）年一回の関東支部大会を、夜間でなく土曜午後か、日曜日に開催することは出来ぬか。

（7期）茂木清文、（12期）荻野信男、（26期）工藤一三

答　右三氏の外に、夜間でなく大会の開催を計画してほしいとの声が沢山にあります。理由は近県に住んでいるから遠いため、という方が多いようであります。幹事会においても、いつもこの問題が取り上げられています。御希望に添うべく協議をつくします。

（三）大会には出来るだけ恩師を御招待してほしい。（29期）若林元典。

答　毎大会に今まで恩師を御二人りから御三名まで御招待申し上げてきましたが、こうした声も次第に大きいので、今大会には、大体十期毎に分けて、その期間に在職された諸先生方を御招待申し上げました。そうした意味で第十回大会には岩下学校長先生始め十名の諸先生方を御招待しました。その中七名の先生方が御出席、各期の同窓生と懇談され、師弟の交歓が美しく会場内の此処彼処にみられたことは、よろこばしき限りでした。今後共、この方針でゆきたいと存じています。

（四）支部大会の当日、その日の出席者の名簿を、会場で手交してほしい。（40期）吉田光輝

答　大会の日、誰が出席しているだろうかと、誰れもが知りたいことは当然のことと存じます。本会は事務局において、大会日のギリギリ二日前ぐらいまで、出席返信を待ち、第一回の大会から今回の第十回大会まで、必ず当日の出席者一らん表を受付でお渡しして参りました。今後もこれは実行して参ります。返信締切日をお守り下さい。

（五）会報うえだの発行を、年三回発行とすることは出来ぬか。そのため年会費を少し上げてもよいと思う。（40）吉田節生、

答　前回にも年四回は発行してほしいとの希望がありまして編集委員一同大いに感激致しました。しかし、現在のところ、年会費を上げても二回以上の発行は非常に至難と覚えています。大体会報発行の経費は広告料で賄っていますが、経費面よりも、編集委員が大へんな努力を無報酬でつくしてくれています。広告や原稿が遅延したり不足したりで、大騒ぎすることも正直な告白とも云えます。しかし、委員一同は徹夜も辞せずして、同窓生のためという一念のみで頑張っていてくれます。やがては三回四回の発行も出来、同窓生諸氏によろこんでいただきたいことを目標に努力している現状であることを、何卒御了察下さい。

（六）幹事諸氏の労には感謝するが、毎年同じプログラムの同窓大会ではみ力もない。工夫を望みたい。（53期）尾沢正毅

答　全く仰せの通り、いつも同じプログラムで変化もなく、特に若い期の諸君からみたら歯がゆくも思われるは当然。しかし、こんな会次第で行う大会でも、いざ準備となれば半年も前から計画をたてねばなりません。何んとか新計画で行ないたいとも思ってはいます。園遊会的なことも幹事会では議されてもいます。よく立案も練ってみたい。御寛容下さい。

（七）大阪が何故、関東支部に属するか不明ですが、関西の支部と合同なのですか。関西だけの入会で宜しいと思いますが。

大阪で関西支部の会が二度程ありましたが、相互の関係はどうなっているのですか。（原文のまま）（38期）辛島喜広

答　前回の第九回大会のときもたしか石川県に在住の同窓生の方から、関東地区を明確に示してほしいとの質問がありました。再び繰返しての説明になりますが、同じ考えの方も沢山おられると思いますので、どうか御一読下さい。

各期の卒業毎に、その期を代表して幹事が選出されています。その方々に自己期の関東支部会員の名簿を提出してもらい。事務局ではそれによって関東支部会員名簿の原簿を作成しています。たとえ東北、北海道そして四国九州におられる方でも、関東支部の消息が知りたいため本人から進んで会員になられている方もあろうし、その期の幹事がこの友も関東支部の仲間に入れておいてやろうとの考えからかどうか分りませんが、事務局への提出名簿に記名してあれば事務局としては関東支部会員とみなして、会員の取扱いをしています。以上の説明でもよくお分りになってもらえたと思います。

次に、関東支部は原則として関西とは合同ではありません、関東支部として独立しています。しかし会員が一身上の都合で、関東から関西へ、また関西から関東へ移られることもあって、本人からの申出のない限り事務局においては各期幹事提出の名簿に従って、会員の扱いをしています。貴君の場合、関東支部会員であることに不賛成であるならば、一応こちらの名簿から除名させていただきますが、決して他意あっての会報送附ではなかったことを御了承下さって、どうか御寛容下さい、事務局としての立場から申し上げました。貴君の同期幹事の方へもこのことは一応事務局からお伝えして了承を求めておきます。

最後に、事務局としてではなく関東支部の幹事長個人としてお答えしますが、大阪に関西支部が確立されていることや、その責任者もいられることの、はっきりしたことは私は存じていませんでした。ましてや関西支部としての会合もあったことは全々知りませんでした。

従って私が幹事長となってからこのことを知らなかったことを本当に申訳なく思っています。

もし、関西支部があるならば今後お互に連絡し合って、交流を深めたいと切望しています。故郷上田の同窓会本部とは、関東支部は交流もあり、本部の大会には関東から、また本会の大会には必ず本部役員代表もおいでねがって、親交を温めています。

関西支部が現在どういう団結の下に、また誰方が責任者であられるのか御教え下されば幸甚に存じます、お互に連絡をとって支部交流につくしたいと存じています。どうかよろしくお願いします。

（八）支部の大会通知は、少くとも一ヶ月前に送ってほしい。（42期）高橋祇平

答　この件もよく問題になりますが、いろいろと御都合も皆さんあられるので早目に御通知致したいと思います。御注告を素直にお受け致しています。有難うございました。

（九）会員数の増加にともない事務の組織化を望みたい。（44期）星野賢造

答　四十四期の代表幹事として星野氏は熱心に事務局多忙の節は手助けにかけつけて下さっているので、切実に関東支部の事務や会報発行までの苦心と繁雑をごらんになっての同情的御意見と有難く事務局は深謝しています。次第にそうした分掌事務の方向をとり、スムースに本会事務の取扱いがなされるように致しますので、今後共全幹事各位の御協力を切にお願い申し上げます。

（十）原稿執筆者の文の末尾に筆者の職業名を入れてほしい。他の面で交際も出来ると思うので。（48期）堀内惇

答　新人の寄稿を毎回待っているのだが中々に集らない。どうか会員皆さんの御投稿を奮ってお願い申し上げます。現在の自己の職業上の意見や感想文など面白いと思います。筆者の職業名など記すことは編集部も賛成であり、左様つとめます。

（十一）第三十六期の尾崎毅氏が、今回、衆議院農林水産委員会の調査室長に昇格されたことを機会があったら、同窓の皆さんへお知らせしてほしい。（49期）滝沢朗

……おめでとうございます。各界に大活躍の同窓生がいる。各期の皆さんから、こうした御知らせをお待ちしています。因（ちなみ）に、尾崎氏は大正八年から昭和七年まで母校に教鞭をとられた尾崎默知先生の御曹子である。

（十二）今度、熊本に移りました、こちら九州地区に、これに類する支部がございますか。お知らせいただければ幸甚と存じます。（原文のまま）（56期）馬場将光

答　本文の第七項に関西支部についての質問などありましたが、残念ながら九州地区には、支部組織のあることを私もきいていませんし、同窓会の本部にも問合せたところ、そうした会合はないそうです。

しかし、明年一月二十日に全同窓生の新名簿が出来ますから、これによって、貴君の中堅的年齢から一奮発し、九州地区に支部組織をつくってみて下さいませんか、本部も動かし、関東支部としても大いに応援致します。関東支部の会報なども、必要とあれば御参考に何部かお送りも致します。御一考の上一つやってみて下さい。（馬場氏は熊本大学教育学部の講師である）

（十三）名簿が出来る由だが、どう申込めばよいか、またいつ出されますか、お教え下さい。

（41期）田中稔治、（44期）小林義徳、（47期）三浦嘉治、（48期）山本輝彦、竹内恵三

答　右の諸氏の外に、まだ何人か、私信や直接電話等で関東支部事務局への問合せがありました。

本紙第六号の第一頁下段に大きく広告してありますが、母校創立七十周年を記念し、一年以上もかかって明年一月二十日に、本部の同窓会から、新名簿が発行されます。

代金や申込方法は広告に説明してありますから、直接本部へ御申込み下さい。まだ充分に間に合いますが、早い方がよいと思います。

（十四）左記の支部会員諸氏から、氏名の誤字や住所の移転或は表示変更などをお知らせありましたので、事務局では関東支部名簿の原簿を訂正しておきました。

ここに御氏名列記の上、御報告申し上げておきます。御了承下さい。

（5期）佐々木今朝平、（17期）掛川俊二、（25期）山岸仗（28期）坂井実雄、（31期）沢田光雄、柳沢次郎、（32期）村上寅雄、（35期）花岡倖、（40期）今井甲子雄、市川寛、（44期）高橋昭平、小山久治、武井国憲、（46期）宮崎貞吉、（48期）堀内惇、土屋侃司、竹内恵三、児玉和男、高柳直樹、（49期）上野高明 牧内裕、（50期）吉村洋一、新見武雄、安藤信義、塚田裕重、池田芳彦、（54期）滝沢明夫、（57期）宮原修、（58期）中山誠、竜野洋和、篠崎名里子、（62期）小田実、青柳健次 以上。

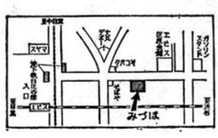
××× ×××

●左記の関東支部会員諸氏が、相ついでお亡りになられました。沢山の同窓大会の返信の中に、この種の返信は誠に悲しく、ただ、みたま安かれと念じつつ、御遺族の方々に対しても、紙上から謹んでお悔み申し上げる次第です。

●（4期）臼井千尋（四十五年十一月二十四日）
●（6期）玉井松雄（四十五年八月五日）
●（13期）戸祭圭太郎（四十五年七月八日）
●（47期）今井秀雄（四十六年三月十四日）
●（55期）狭久保賢二（昭和四十六年五月二十九日）

御遺族各位から、生前いろいろお世話になりましたと、御丁重な御挨拶の一文が追記されてあり、同窓会の発展を併せ祈りますと申添えられてありました。以上

クラス会・ご商談・ご会合に
ご利用のほどお待ち申し上げます
割烹　みづほ
東京都渋谷区恵比寿西2の2
電話 461—8663



企業の発展と業績向上の原動力たる内部監査の
わが国唯一の研究調査機関!!
日本内部監査協会
会長　西野嘉一郎
常任顧問　島田次郎（21期）
東京都中央区銀座3丁目11番6号　銚子ビル　電話（542）7571番（代）

事務局日誌

（昭和四十六年四月一日以降）

一、四月二日、本年度第一回幹事会開催す。出席七十一名。新支部長始め新役員幹事決定す。第十回関東支部大会の件を議し会報うえだ第五号発行を六月中旬と予定し外、諸案を議す。

一、四月十二日、五月十三日、五月十九日、編集会議をひらく。

一、五月二十三日、大先輩でもあられる（13）依田誠先生宅にて開催された先生の御胸像安置の宴に御招待受け、関東支部を代表して（31）矢島、（36）神野（40）小林（50）半田（55）成沢 以上五名出席。

同日午後、本部同窓生大会に引続き出席、本部大会を激励し、関東支部の気炎を上ぐ。

一、五月二十八日、六月三日、編集委員会ひらき、その大要まとめる。

一、六月四日、僚友校の野沢北高校東京同窓生大会に御招待受け岩村田高校同窓会代表と共に、本会を代表し（31）矢島幹事長出席す。

一、六月十一日「ノスタルジア信州」の観光について、上田市観光課の招致を受け、本会を代表して（20）和田、（31）矢島（50）半田、（51）村田（55）成沢、以上五名の幹事出席し、郷土の各協力団体代表者と研究会をひらく。

一、六月二十日 関東支部会報「うえだ」第五号発行、事務局に各期幹事十数名参集し、その発送に協力をつくす。

一、六月二十一日、（50）半田編集長、本会を代表し会報を持参母校教職員及び在校生一同と上田市観光課、僚友校染谷丘高校教職員へ「うえだ」第五号を贈呈に赴く。

一、六月二十五日、第二回幹事会開催、出席六十六名、編集報告と、第十回大会の件、その他を議す。

一、七月八日、緊急に、役員幹事参集し、明日の大会諸準備につくす。

一、七月九日、第十回関東支部大会を港区の東京農林年金会館にて、午後五時受付開始、六時開会。和気満堂にみちて盛会。来賓を含め出席二百数十名に及ぶ。

一、八月十八日、第四十八期生有志を中心とし、前後期の有志も参加した経済懇談会（中食会）発足す。当日講師として（28）坂井副支部長、来賓（31）矢島幹事長招待を受け出席。各種業界に中堅の事業主として活躍する少壮実業家の抱負や大。お互の経験を語らい共に参考となす。同窓の心おきなき会談の意義深し。

一、九月六日、明後日開催予定の第三回幹事会に先立ち、主として、本会の財政面の件について緊急役員幹事の打合会ひらく。（21）島田支部長始め十名参集協議つくして諸案まとまる。

一、九月八日 第三回幹事会兼第十回支部大会の反省会を開催す出席五十二名、一般会員の年会費納入について各期幹事の協力方を要請す。十月予定の幹事有志による第三回郷土及び母校訪問の件を議し、次に第十回支部大会について活発なる反省意見続出するも、主として受付時の手配の論議のみ強く、他は概して良好と採点一致す。

一、九月十八日 長野県高等学校（公私立高校の総数、百拾数校の由）東京同窓会連合会の新規再編成に関する打合会に出席予定であった（31）矢島幹事長急務のため即日電話にて代理出席を（31）柳幹事に懇願、同幹事代理出席す。県下二十二校の各東京地区同窓会の代表者出席、再編成について会則の審議より発足するも草案の大要に至りしのみとか。

今後更に回を重ねて進展を計る由なり。（註。この連合会については、いずれ再編成結実をみて、その過程と大要をあらためて本紙に詳細報告の予定でいます）

一、九月三十日、会報第六号発行に関し、（35）花岡新編集委員長の要望にて、本会事務局に編集委員全員の外、一般各期幹事数名の出席も求め、掲載希望事項など拝聴、新編集の参考となす。

一、十月一日、本春四月選出された新期幹事の名簿完成、第三回郷土訪問の旅の計画書と共に、新幹事全員へ右発送す。

一、十月五日、長野県高校同窓会連合会の地区別打合会、上野にて開催さる。（長野県下を四地区に分け、本会は第二区所属）（31）矢島幹事長出席、地区代表校七校（上田、野沢北、小諸商、岩村田、臼田、北農、蓼科）集合、地区としての活動計画を練り、諸案を議す。

一、十月十五日、上田高校同窓生にして税界在職者及びOBをもって組織した、「松尾税友会」盛会に発足。本会を代表して、（31）矢島幹事長招待を受け出席、一言祝意を表す。四十数名の出席者にて上田スピリッドの意気大いに上り、感激の発足の会合なりき。今後の一層充実を望むや切。

一、十月二十四日、第三回郷土と母校訪問の旅一泊二日にて挙行さる。別所の宿舎に午后一時集合（13）馬場大先輩より（58）林幹事まで総員十七名。深秋の山に松たけと紅葉をめで、夜母校学校長、外来賓を迎えて懇親会をひらく、ふるさとの地にふるさとの香りを満喫し楽し宴なりき。二十四日朝、母校訪問し（29）岩下母校学校長始め、我が同窓教諭数名を交え懇談に打くつろぐ。その后、母校門前にある同窓会館を訪ね、（28）掛川名簿編集長外、事務局員の名簿編集の労苦に対し敬意を表す折りよく（27）柳沢同窓会本部理事長も来館、諸事打合す。

一、十月二十七日 長野県高校同窓会連合会の各区役員会（暫定改組準備会）が室町の長野県人会連合会事務所で開催。本会より（31）矢島幹事長 （35）花岡編集委員長出席、各四地区より四校宛、計十六校。諸案を議す（本会についても次号に会則規約を記し詳述することにします）

一、十一月六日 編集会議を事務局にてひらく、各原稿、広告の集収に最終的打合せをなす。

一、十一月七日 上田染谷丘高校東京同窓大会に招待受け（21）島田支部長（23）大森副支部長を始め（63）三井幹事に至る各期代表幹事二十三名列席、僚友校との親睦につとめ、故郷の方弁もなつかしく、盛会に了る。

一、十一月十二日 昭和十九年より二十二年まで在職せられた旧師、松浦武雄先生の各歴任校同窓生合同による「母校をしのぶ会」九段の私学会館で開催され本会員十名程出席、終戦直後の母校高校生々活を撮影された記録映画を鑑賞させていただく。破衣破帽の昔なつかしい映画であった。先生の歴任校、長野、上田、篠の井、県ヶ丘、赤松、和光等の各同窓生有志の集いであり、出席約五十余名。松浦先生の御健勝を祈った次第でもある。

一、十一月十六日、丸子実業高校東京同窓会長の滝沢左内氏、本月三日急逝され、本日その葬儀告別式与行さる。僚友校として本会より、（31）矢島、（35）花岡の両幹事、青山斎場に向いその霊前に額く。同氏とはその生前に、同窓会連合会において親しく、急逝心より悼む。合掌。

一、十一月十七日、本会事務局において編集会議ひらく。（35）花岡編集委員長、指示の下に、委員八名自己担当頁の配置原稿を深夜に至るまで整理清書につくし、解散午前一時半。委員一同の熱意と尽力を敢て同窓各位に伝え、その労苦を謝す。

一、十一月二十二日、ドタン場まで追込まれた最終の編集会議を池袋・八峰閣の一室で、濃い番茶とニギリめしに頼りつつ、終に徹宵でまとめ上げた。

編集終りて二十三日ひるさがり、委員各位の、いみじくもよめる。……………

お互に、企画企画の思案がお。
編集は、始めてのこと五里霧中
新聞は、広告が先きと幹事長
とつとつと語り明かすは堀内さん
大正のチョッキの似合う成沢さん
村田さん、大人風におおそうか
朝焼けの、あいつはいつも半田さん
委員長、進まぬ会議湯気を立て
この苦労、お前らも知れと幹事長

……………かくして、無事了る。

とにかく眠い。　以上